

研究紀要

平成26年度

第38号



静岡県博物館協会

静岡県博物館協会
研究紀要

第38号 / 平成26年度

表紙 / 開館30周年を迎えた賀茂真淵記念館

目次

-
- 2 静岡県近代美術年表稿 昭和戦後編 1 立花 義彰
-
- 20 平成26年度 静岡県博物館協会地域セミナー事例報告
変化に対応し、市民のニーズに応える賀茂真淵記念館の夏期講座 賀茂真淵記念館 鈴木 理市
-
- 26 平成26年度 静岡県博物館協会地域セミナー事例報告
シンポジウム 灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開 浜松市博物館 久野 正博
-

編集・発行

静岡県博物館協会(事務局)

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

静岡県立美術館

電話-054-263-5857 FAX-054-263-5742

デザイン タツマキチューン

発行日 2015年(平成27年)3月31日

印刷 文光堂印刷株式会社

静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 1

立花 義彰

本年表稿は、『静岡県博物館協会紀要』第30号及び31号の「静岡近代美術年表稿 明治編」同第29号「同 大正編」、同第34, 35, 36, 37号所収「同 昭和戦前編」に次ぐ戦後の静岡県内の美術動向を知るための基礎資料としての編纂を図った。本号では昭和20-28年を対象とし、導論として、この時期の県内美術の動向についての概説を述べる。

戦後混乱期と言われてきた敗戦直後にも関わらず、画壇再建へ向けた作家たちの動きが早い時期から既にあった事、その多くが戦前・戦中期からの流れを受け継いだ活動でもあった事等、忘却されがちな諸時事には目を新たにさせられるものがある。小団体の結成と統合の中で、「観光」振興を表看板とした活動は、文化面への関心の低い世情にあって、低調な展覧活動を補完する役割を担っていた。

そのような戦後間もなくの県内美術界の動きを、新聞の紙面は次のように伝えていた。

「戦時中縣下に疎開してきた美術家中、その後の住宅難、食糧難で続いて縣下に居残っている人に横山大観、梅原龍三郎画伯をはじめ國画会の柏木俊一、曾宮一念、独立の高島達四郎、松島一郎、日展無鑑査の細井繁誠、小栗哲郎、青木達彌氏等多士済々だが最近の列車地獄はこれら中堅画家の東京出品も思うようにならぬので地方美術文化の高揚を目指して積極的に動き出している。以下はその状況

◇東部伊豆地帯は東京にも近く疎開画家も一番多く柏木、□□、高島、松島、細井氏等が中心に東部美術連盟を結成、富士宮市には曾宮氏を中心に桃源会が作られている

◇中部美術連盟の結成は縣下で一番遅れているが小栗氏のほか旺玄社系の甲賀義成、白日会の島田四郎、版画協会の中川雄太郎氏などかなり系統の異なつた人人が集まつている

◇西部は東京にも遠くなるので疎開画家達は春陽会を最近脱退した青木氏一人でリードしているようだ。これら画家の間には個人的折衝はあつても現在の輸送難では全縣的にはなかなかまとまりにくく現在地区毎に分散の形だが文化の向上とともに全縣的なまとまりを望む声も多く、

その一つの現れとして國画会系統の小川龍彦氏が主唱者となり疎開画家を顧問にして郷土を表現する観光美術連盟の結成を急いでいる。これは絵画だけでなく写真や工芸などを含む相当大規模なものに発展するようだ。』（『毎日新聞』静岡版 昭和22年1月25日）

また同年、昭和22年6月6日付『静岡新聞』は、前出画家に加え太田聰雨、鈴木三朝の名を挙げ、更に地域の諸団体にも言及し、戦前の静岡県美術展のような全県的展覧会の誕生を期待している。

付け加えれば、観光行政や地場産業振興との関わり、登呂遺跡の発掘からのインスピレーションを受けた作品の登場などは、戦後久しく影響を及ぼした現象であろう。

本年表稿から窺われる事としては、アンデパンダン展の誘致・開催や、松坂屋等での諸展覧の開催、書店等を会場とした個展・グループ展の開催の活発化が挙げられる。

諸記事執筆者の認識に従う範囲では、復興の兆しが見える状況とは言えるのだが、問題点も当然ながら存在する。県展の開催、県民会館等公的展示施設の希求は、同時に地方画壇（彫刻も例外でなく）の団体割り・地域割りによるギルド制度再建への道程でもあり、或る画家が指摘する「専横と情実」といった根強い慣習の是正には、その後多大な労力と時間とが必要となった。

今編年表では戦後の混乱期でもあり、不確実な典拠に基づく事項も敢えて記載した。今後の検討のため史料について御教示願いたい。

年表表記凡例

S./ 昭和 年 月 日

◎ 作品名(太字は図版掲載)

* 図版掲載紙と他の区別記号

静岡 『静岡新聞』 毎日 『毎日新聞』

朝日 『朝日新聞』 読売 『読売新聞』

美術年鑑 『日本美術年鑑』

1945 昭和20年

- 1/ 9 尾崎元次郎逝去。享年 78。
(静岡 1/11, 12, 朝日 1/11)
- 2/ 和田金剛《勝又富作少尉像》原型完成。
(静岡 2/21 毎日静岡版 S19.11/23)
- 3/10 東京大空襲。近藤浩一路他自宅焼失。
藤井浩祐、熱海に転居。
- 3/31 朝日、読売、毎日地方版廃止。(毎日静岡版 3/31)
- 4/13 日本美術及び工芸統制協会県支部県決戦美術工芸展於静岡松坂屋(-22)。(静岡 4/15)
- 4/15 芹澤銈介、自宅焼失。
- 4/21 県下各紙、静岡新聞に統合される。
(静岡 3/14, 4/21)
- 4/ 家財道具刀剣買上於田中屋。(静岡 4/29)
- 5/ 楠公遺墨展於田中屋。(静岡 5/17)
- 5/ 曾宮一念、富士宮に転居。(読売静岡版 S25. 9/1, 美術 no.8)
- 6/19 浜松空襲。浜松市図書館焼失。(静岡 S21.1/1)
- 6/20 静岡空襲。
- 7/20 野島青菘応召。9月福岡で除隊。
- 8/15 ポツダム宣言受諾。
- 9/ 2 降伏文書調印。
/ 青木達弥、掛川に疎開。
/ 小泉癸巳男逝去。
- 9/10 石川欽一郎逝去。
- 9/ 静岡県日本画院結成於掛川旧竹ノ丸。柳田華外他。(静岡 9/27)
- 10/15 木下李太郎逝去、享年 61。(美術年鑑 S19・20・21, 毎日静岡版 10/17)
- 10/ 総合芸術派集団結成於吉原。(静岡 11/21)
- 10/ 《興重観音》改名の議論。(静岡 11/25)
/ 静岡県美術連盟結成於熱海大乘寺。1/13-17 熱海市役所議場にて展覧会を企画。(静岡 12/3)
- 11/ 3 日本美術院小展覧会於東京三越(-10)。
(毎日 10/9)
- 11/20 写実派協会同人絵画試作第 2 回展於静岡田中屋(-24)。(静岡 11/20, 毎日静岡版 11/21)
- 3/ 1 第 1 回日展於東京都美術館(-31)。
山村誠《柿》漆畑廣作《堀越さんの像》入選。
(静岡 2/26)
漆畑廣作《堀越さんの像》斎藤大《立春伊豆》蛭澤尚《人物》藤本東一良《赤い服》村上巖《秋》山村誠《柿》澤田政廣《燿(うずめの命)》杉本清韻《猿》杉本宗一《観音》藤井浩祐《裸婦》和田金剛《杜の精》二橋美衡《黒味銅金銀彩彫金萩紋花瓶》平野利太郎《海山の幸刺繍二曲屏風》出品。県内より鍋木清方《春雪》横山大観《漁夫》出品。(出品目録)
- 3/31 静岡市民美術協会結成。
- 4/ 3 第 14 回日本版画協会展於東京(-13)。
- 4/ 7 第 20 回国画会展於東京都美術館(-29)。
曾宮一念《外房鶴原秋晴》《山畑驟雨》《富士暁雲》《雲這ふ裾野》《駿河吉原夏富士》柏木俊一《富士》
洪川駿二《早春》大川武司《土》《静物》
- 4/ 人民美術会駿豆支部設立。(読売静岡版 4/8)
- 5/ 7 静岡市民美術協会第 1 回展於静岡松坂屋(-11)。
小栗哲郎、奥田八重子他。(静岡 5/5)
- 5/13 石井漢舞踏公演於浜松松竹映画劇場(-24)。
(静岡 5/19)
- 6/ 飯塚聖林・就逝去。享年 69 才。
- 7/ 引佐郡下児童作品図画第 2 回展覧会。審査員：山村誠。(静岡 6/13, 19, 27, 7/8, 18)
- 7/ 7 小林清親名作展於東京資生堂ギャラリー(-11)。
- 8/ 9 岡本一平・松下三鷹教育座談会於方広寺。
(静岡 8/9)
- 8/23 日本美術及工芸統制協会解散。
- 8/23 華静会夏季洋画講習会於静岡安東国民学校(-27)。
- 9/ 1 第 31 回二科展於東京都美術館(-18)。
北川民次《風景》《重荷》
- 9/1 第 31 回院展於東京都美術館(-17)。
太田聰雨《園》
- 9/19 大辻司郎・岡本一平講演会於浜松広沢国民学校。
(読売静岡版 9/18)
- 9/21 第 1 回行動美術展於東京都美術館(-10/4)。
望月清作《興津川の秋》入選。(読売静岡版 10/6)
- 10/ 7 全国観光ポスター展於静岡田中屋(-13)。
(毎日静岡版 9/24, 静岡 10/6)
- 10/15 七凡社展於静岡田中屋(-19)。
- 10/16 第 2 回日展於東京都美術館(-11/20)。

1946 昭和21年

- 1/ 3 山崎鋭一写真展於静岡田中屋(-12)。
(静岡 S20.12/31)

秋野不矩《姉妹》井上恒也《爽晨》中村岳陵《樹蔭》
横山大観《午下》赤城泰舒《野の花》漆畑廣作《藝
談》斎藤大《麦の秋》曾宮一念《麦》藤本東一良《室
内》細井繁誠《鏡に向ふ女》山口源《温室の屋根》
澤田政廣《赤童子》杉本宗一《加藤忠太郎翁像》
堤達男《開放》長澤幸夫《舞》藤井浩祐《無題》和田
金剛《白砂に立ちて》稲木春千里《枝豆文瓢型机》
近江晃《アルマイト平脱ドクダミ文文笥》栗木伎茶夫
《釉嵌花文笥》後藤清吉郎《柳文小笥》下田聖比
古《烏賊金具》中野謙二《漆菜園蒔絵手笥》平野利
太郎《草花文刺繍二曲屏風》増田邦太郎《野菜紋
様屏風》出品。

中村岳陵、曾宮一念、日展審査員。

(出品目録、みづゑ no.496)

- 10/20 木下空太郎追悼陳列於伊東。(毎日静岡版 10/9)
11/ 3 □□会第1回展於沼津。(静岡 10/20)
11/ 静岡県西部美術連盟展・浜松工芸作家協会展於
浜松東洋木工(-11)。(読売静岡版 10/24)
11/27 「富士に凝る 近頃の梅原龍三郎氏」(静岡 11/27)

1947 昭和22年

- 1/18 本県人画家連合展覧会於浜松市公会堂(-27)。
(静岡 1/19)
1/ 革静会第5回展於静岡。(静岡 1/20)
1/ 浜松工芸作家協会中部著名工芸品展覧会於浜松
月ヶ瀬。(静岡 1/30)
1/27 連合軍総司令部天然資源局美術部ギャラガー氏
来静。(読売遠州版 1/24)
2/ 静岡県観光美術連盟結成。(毎日静岡版 1/25)
2/24 第24回春陽会展於東京都美術館(-3/7)。
3/ 3 三光会第1回展於東京三越(-8)。井上恒也参加。
3/ 9 静光会第1回展於静岡田中屋(-14)。
3/17 中村岳陵、芸術院会員に推薦される。
3/25 県観光美術連盟日本画部会合於県観光協会。
顧問：大田聰雨、安田半甫、井上恒也
委員：久保田光亨、寺平誠輔、鈴木貞夫、山下青城。
(毎日静岡版 3/27)
4/ 9 第15回独立展於東京都美術館(-28)。
高島達四郎《熱海》他。山道栄助《岩しば》《溪流》
4/ 無審査展於静岡駅他(-)。(毎日静岡版 4/10)
4/12 第21回国画会展於東京都美術館(-18)。

曾宮一念《あかつき》《夕雲》山村誠《浜名湖》柏木
俊一《鷺巣山》山口源《葉上落花》《魚》洪川駿二
《川原小丘風景》《暮色》《椿》故大川武司《南瓜と
子供》《子供の像》《三人》《子供の顔》《焔》《小さき
丘》《庭にて》芹澤銈介《いろは屏風》《沖縄地図》
《琉球風物》《法然上人》《法然上人絵伝》他。

- 4/15 県西部美術文化協会春季総合美術展於浜松不二
谷(-19)。(読売遠州版 4/12)
4/25 曾宮一念個展於東京柴田ギャラリー(30)。
(東京 4/25)
4/26 近藤浩一路個展於東京三越(5/3)。(東京 5/3)
5/10 静岡県観光美術展第1回展於静岡松坂屋(-23)。
(静岡 5/7, 17, 毎日静岡版 5/9)
5/ 葵文庫、CIE 読書室開設。(静岡 5/16)
6/ 2 第1回西会展於東京資生堂ギャラリー(-6)。曾宮
一念出品。(みづゑ no. 502)
6/10 第1回美術団体連合展於東京都美術館(-30)。
小栗哲郎《裏久能山》高橋谷衛《初夏の風景》井上
重生2点。(毎日静岡版 6/11)
北川民次《地にうごめく》赤城泰舒《野梅》山口源
《習作 壁》山村誠《羅漢図》洪川駿二《椿》山道栄
助《四方蓮華》小栗哲郎《裏久能山》東克己《風景》
(目録)
6/16 「県下美術界の消息」(静岡 6/16)
7/ 1 復興派美術院展於東京都美術館(-)。
永井正夫《初夏の風景》特選。(静岡 7/12)
7/ 6 野村光司奥伊豆風景個人展於下田静岡銀行下田
支店(-8)。(毎日静岡版 7/2)
7/15 山岳写真展於静岡田中屋(-20)。
(毎日静岡版 7/13)
7/ 中村岳陵、芸術院会員となる。
7/ 北遠絵画クラブ第1回展於二俣町。(静岡 6/14)
8/ 1 書道連盟第1回展於静岡松坂屋(-6)。(静岡 8/1)
8/ 6 一水会展於徳山中学校(-7)、於静岡松坂屋。
(静岡 7/28)
9/ 1 第32回院展於東京都美術館(-17)。
中村岳陵《清夜》中島保《伊豆の玄岳》太田聰雨《箏》
9/ 1 第32回二科展於東京都美術館(-19)。
柏田[清川]泰次初入選。(静岡 9/3)
北川民次《雑草の如く1》出品。
9/ 2 第1回美術団体連合展於大阪阪急・三越・大丸・

- 松坂屋(-21)。
田辺嘉重《裏庭の家》井上重生《アムールと薔薇》
高島達四郎《曇》小栗哲朗《裏久能山》北川民次
《地にうごめく》山口源《習作 壁》東克己《風景》(目録)
- 9/ 7 山岳写真展於静岡松坂屋(-14)。(静岡 9/7)
- 9/ 8 安田半圃、熱海市伊豆山で逝去。享年59。
(美術年鑑 S.22-26)
- 9/17 革静会第9回展於静岡田中屋(-21)。
(毎日静岡版 9/18)
- 9/19 第1回二紀会展於東京都美術館(-10/4)。
宮永岳彦《鏡》(日傘)
- 9/20 第9回一水会展於東京都美術館(-10/4)。
稲川一郎入選。(静岡 9/21)
- 9/22 瀬尾南海来静。後援会結成される。(静岡 9/21)
- 9/23 写実派協会素描展於静岡田中屋(-28)。
参考出品:中川一政、木村莊八、石井鶴三、平福百穂他。(静岡 9/23, 毎日静岡版 9/24, 10/3)
- 10/14 八木昌一個展於静岡田中屋(-19)。(静岡 10/12)
- 10/15 第1回榕会展於東京資生堂ギャラリー(-22)。
曾宮一念《富士初秋》出品。
- 10/16 第3回日展於東京都美術館(-11/20)。
秋野不矩《桔梗》井上恒也《朝暉》野島青茲《童女
舞踏》赤城泰舒《秋草》島田四郎《夏の一日》藤本東
一良《刺繍する女》澤田政廣《降魔》堤達男《自由の
樹を植える為に》藤井浩祐《浴女》和田金剛《戯れ》
下田聖比古《海芋(金具)》中野謙二《漆蒔絵硯
筥》二橋美衡《彫金黒味銅合彩飛鶴紋柱掛》平野
利太郎《銀繡屏風》出品。
(みづゑ no.506, 出品目録)
堤達男、特選。(静岡 11/16, 17) 藤本東一良特選。
- 10/22 曾宮一念近作展於東京兜屋画廊(-31)。
- 10/24 働く者の美術展覧会於浜松松菱(-26)。
(毎日静岡版 8/30)
- 10/25 静岡市美術展第1回展於静岡田中屋(-30)。
(毎日静岡版 9/19, 10/24, 26, 静岡 10/22)
- 11/ 1 清流会展於沼津市商工会議所(-3)。
(静岡 10/8, 11/1)
- 11/ 1 県西部美術展於浜松松菱(-7)。(静岡 10/13)
- 11/ 日本美術展於東京(-11/20)。
杉山祐安《F君の像》[古橋広之進肖像]出品、日大
水泳部へ寄贈。(毎日静岡版 10/29, 11/22)
- 11/20 静岡県美術展第1回展於静岡松坂屋(-30)。
審査員:望月春江、井上恒也、鈴木三朝、尾形月山、
青木達弥、小栗哲郎、渋谷栄志、細井繁誠、井出宣
通。(静岡 10/5, 27, 11/18, 22, 毎日静岡版 10/9,
11/21, 22, 23, 26, 27, 12/3)
- 11/22 藤枝総合美術展於藤枝小学校(-24)。(静岡 11/21)
- 11/23 日本画新作展於静岡松坂屋(-29)。(静岡 11/22)
- 12/24 「1947年の回顧 文化」(静岡 12/24)
- 12/ 県西部美術協会発足。(静岡 12/29)
- 1948 昭和23年**
- 1/ 1 多田北鳥、逝去。享年60。(美術年鑑 S.22-26)
- 1/13 平岡朴翁書道展於静岡田中屋(-18)。(静岡 1/15)
- 1/20 彩光会第1回展於浜松月ヶ瀬(-22)。青木達弥、柏
田[清川]泰次、野島青茲、永井正御。
(静岡 1/15, 読売遠州版 1/16)
- 1/26 創造美術結成に秋野不矩参加。
- 2/14 堤達男彫刻展於静岡松坂屋(-22)。(静岡 2/10)
- 2/26 県文化課、県文化委員会設置。(静岡 2/27, 5/29,
9/13, 毎日静岡版 2/28, 読売静岡版 2/30)
- 3/14 県日本画院第2回研究会於静岡浅間神社社務所。
(毎日静岡版 3/5)
- 3/ 《久能寺経》疎開先の飯山正受庵より、鉄舟寺に
戻る。(静岡 3/13)
- 3/31 第25回春陽会展於東京都美術館(-4/13)。
小栗哲郎《山村麗日》《山中日暮》
- 4/ 1 第22回国画会展於東京府美術館(-13)。
曾宮一念《砂丘地帯》《裾野と愛鷹》山口源《森の
静物》《卓上》柏木俊一《山と松》《伊豆の山》梅原龍
三郎《三津》芹澤銜介《染物》渋谷栄志《竹林早春》
《軍鶏》
- 4/ 杉山祐安《海童》設置於宇佐美村小学校。
(毎日静岡版 4/6)
- 4/15 第2回現代美術総合展於東京都美術館(-5/10)。
北川民次《風景》出品。
- 4/25 革静会第10回展於静岡田中屋(-29)。
(毎日静岡版 4/7)
- 5/22 赫土社13回展於清水港マーケット(-26)。
(静岡 5/20)
- 5/23 日本古代文化展覧会於三島大社宝物館(-31)。
(毎日静岡版 5/20, 静岡 5/28)

- 5/23 佐藤清一郎、岩水寺焼初窯。(読売静岡版 6/11)
- 5/25 第2回美術団体連合展於東京都美術館(-6/16)。
梅原龍三郎《富岳図》(毎日静岡版 5/28)
北川民次《風景》柏田泰次《少女と花》高島達四郎
《未明之像》《熱海風景》齋藤準児《庭》山道栄助
《街》八木昌一《春》田辺嘉重《早春》甲賀義成《北
国の初夏曇日》赤城泰舒《五月》山村誠《柘榴》洪
川栄志《緑衣の女》曾宮一念《富士雨後》山口源
《シャボン(習作「壁」no.2)》井上重明《橋》《水差の
ある静物》出品。(目録)
- 5/25 遠州観光協会・西部美術文化連盟浜名湖観光美
術展(-30)。(静岡 5/22,30, 毎日静岡版 5/1)
- 5/26 観光美術展於静岡松阪屋(-30)。(静岡 5/25)
- 6/ 4 静流会第3回小品展於沼津栄屋(-6)。(静岡 6/3)
- 6/16 写実派協会第7回展於静岡田中屋(-20)。
彫刻部新設、杉本宗一参加。春陽会25周年記念
展出品会員作品展示。(毎日静岡版 6/5, 18, 静岡
6/16)
- 6/20 芹澤銈介染織小品展於東京たくみ工芸店(-26)。
- 6/22 宮尾しげお漫画展於静岡市観光協会(-27)。
(毎日静岡版 6/20)
- 6/27 陶磁器展於清水小芝神社。(読売静岡版 6/18)
- 6/28 熱海駅前ロータリー完成。ロータリー中央のナツメ
ヤシは、美術評論家福島繁太郎がナポリから持ち
帰ったものを寄贈。(毎日静岡版 6/30)
- 7/22 CIE 図書館、静岡市公会堂4階に開館。
(毎日静岡版 2/18, 7/13, 21, 8/8, 読売静岡版, 遠
州版 2/15, 静岡 7/18)
- 8/ 1 革静会夏季洋画講習会於静岡城内中(-3)。講師:
松島一郎、松岡圭三郎。(静岡 7/20)
- 8/ 4 張問禧一「郷土の工芸」(読売静岡 A, B 版, 遠州
版 8/4)
- 8/ 静岡県版画協会発足。
- 8/ 5 静岡県版画協会夏季講習会(-7)。
- 8/10 彩光会小品展於浜松月ヶ瀬(-15)。(静岡 8/10)
- 8/27 登呂遺跡遺物展(-29)。(毎日静岡版 8/29)
- 9/ 1 第33回院展於東京都美術館(-16)。
中島保[多茂都]《丹那》入賞。(静岡 9/6)
山林大幾初入選。(静岡 8/31)
太田聰雨《二河白道を描く》
- 9/ 1 第33回二科展於東京都美術館(-16)。
- 北川民次《雑草の如くII》(みづゑ no. 516)
- 9/15 県書道展於静岡田中屋(-19)。(毎日静岡版 9/15)
- 9/18 第1回創造美術展於東京都美術館(-10/2)。
秋野不矩《作品I》《作品II》
- 9/ 革静会第11回予定。(毎日静岡版 4/7)
- 9/30 山中散生「新しい美」(読売静岡 A, B 版, 遠州版
9/30)
- 10/ 川瀬巴水《熱海の夜景》《錦ヶ浦》《多賀海岸》《伊
豆山》他好評。(読売静岡 A, B 版 10/6)
- 10/20 労働者のための書道講習会於静岡公共職業安定
所(-29)。(毎日静岡版 9/16)
- 10/ 3 第2回二紀会展於東京都美術館(-17)。
宮永武彦《ある店頭》
- 10/ 4 第16回独立展於東京都美術館(-17)。
山道栄助《谷間の秋》《秋の丘》
- 10/11 第2回椿会洋画展於東京資生堂ギャラリー(-18)。
曾宮一念《椎谷遠望》出品。
- 10/12 静岡市展第2回展於静岡田中屋(-17)。
(静岡 9/11, 16, 毎日静岡版 9/9)
- 10/20 第4回日展於東京都美術館(-11/20)。
野島青茲、野中鳴雪、沖六風、松下蒼州、青木幽溪、
島津半仙、望月祥雲、大内枝翠、桜井琴圃、入選。
(静岡 10/17)
- 齊藤大太郎《伊豆小冬》和田清《海辺にて》堤達男
《古道照新色》杉本宗一《小野庵像》杉山祐安《海
童》入選。(毎日静岡版 10/16)
- 鳥羽清一、川崎信雄、大橋隼雄、八木秀之助、二橋
美衡父子入選。(静岡 10/22)
- 書道入選者。(静岡 11/3, 毎日静岡版 10/19)
- 中村岳陵《少女》野島青茲《診察室》赤城泰舒《山
村校庭》漆畑廣作《文楽》齋藤大《伊豆初冬》齋藤
真一《鶏小屋》藤本東一良《籠を持つ女》和田清《海
辺にて》小笠原安兵衛《流転》澤田政廣《試作》杉
本宗一《小野庵像》杉山祐安《海童》堤達男《古道
照新色》長澤幸夫《牧神の午後》藤井浩祐《腰かけ
た裸婦》和田金剛《白花の夢》大橋隼雄《水辺》川崎
信雄《梟時絵手箱》鳥羽硬忍《瓜漆器文箱》二橋美
衡《黒味銅兎象嵌肉刻秋草二虫紋》二橋幸雄《黄
銅彫金小宮》八木秀之助《水魚》出品。中村岳陵、
審査員。中村岳陵《少女》赤城泰舒《山村校庭》政府
買上。

- 11/26 静岡県美術展第2回展於静岡松坂屋・田中屋(-12/3)。審査員:野島青菘、加藤晨明、小栗哲郎、洪川栄志、増田大罇、細井繁誠、青木達弥、山中散生、斎藤準児、獅子吼真、瀧澤清、山口源、井出宣通。曾宮一念、高島達四郎、柏木俊一特別出品。(静岡 11/3, 8, 12/4, 毎日静岡版 11/19, 28, 30, 12/1, 2, 4)
- 12/ 4 挿絵原稿展於静岡田中屋(-9)。(静岡 12/1, 毎日静岡版 12/4)
- 12/11 橘香果個人展於沼津栄屋(-12)。(毎日静岡版 12/11)
- 12/14 県労働文化祭美術展於田中屋(-19) (毎日静岡版 12/7, 静岡 11/3)
/ 新静岡美術会創立。(静岡 S26.11/6)
- 1949 昭和24年**
- 1/ 佐藤勝輔《不動明王》他、岳陽開拓組合の為頒布。(読売静岡 A, B版, 遠州版 1/6, 8/11)
- 1/11 新美術会展覧会於静岡田中屋(-15)。日展入選7会員作品他。(毎日静岡版 1/9)
- 1/18 柏田[清川]泰次油絵個展於東京資生堂ギャラリー(-22)。
1/ 県教職員美術展。(静岡 1/26)
- 1/26 法隆寺金堂壁画焼失。(静岡 1/27)
- 1/26 鈴木三朝、法隆寺視察(-2/11)。(毎日静岡版 2/19)
- 2/ 2 泰西名画複製展於静岡田中屋(-6)。(静岡 1/31)
- 2/10 清水市図書館開館。(毎日静岡版 2/8)
- 2/15 駒田嘉一路第2回個展於静岡松坂屋(-20)。(静岡 2/14, 15)
- 2/15 名画複製展於浜松松菱(-25)。(静岡 2/14)
- 2/ 石井柏亭、国立公園施設協会派遣により日本平、三保を写生。(静岡 2/25)
- 3/ 3 洪川栄志小品展於清水材木会館(-6)。(静岡 2/14, 3/1)
/ 志戸呂焼復興。(静岡 3/26)
- 4/ 1 第26回春陽会展於東京都美術館(-16)。
小栗哲郎《松野村》栗田雄《レースの静物》
- 4/ 1 第23回国画会展於東京都美術館(-16)。
新入選者発表。(静岡 4/4)
曾宮一念《すすきと海》《ざぼん》山口源《構図・黒と白》《構図》柏木俊一《伊豆の山》梅原龍三郎《三津》
- 洪川栄志《女坐像》青木達弥《花と鏡》《黄色い花》芹澤銈介《型染裂》他。
- 4/13 大城貞夫木版画展於浜松松菱(-17)。(静岡 4/14)
- 4/19 平口勝個展於静岡田中屋(-24)。(静岡 4/14)
- 4/22 杉山吉良・福田勝治裸体写真展於浜松松菱(-5/5)。(読売浜松版 4/21, 27)
- 5/ 1 大井画人協会第1回展於島田温知画房(-3)。(静岡 5/3)
- 5/ 3 沖六鶴・花村晃観書画展於静岡田中屋(-8)。(静岡 5/4)
- 5/ 6 沼津美術協会展於沼津栄屋(-9)。(読売静岡 A, B版, 遠州版 5/1)
- 5/ 9 第1回創造美術春季展於東京丸善画廊(-14)。秋野不矩《少女》出品。
- 5/14 第3回美術団体連合展於東京都美術館(-6/5) 北川民次《松の木のある風景》柏田[清川]泰次《ひまわりと私》山道栄助《花》高島達四郎《街道》田辺嘉重《壺》佐野繁次郎《自分》赤城泰舒《椿》藤本東一良《憩へる女》青木達弥《菊など》山口源《構図 no.3》曾宮一念《佐渡》猪飼重明《作品B》《作品A》洪川栄志《座ス女》井上重明《山》《畦道》出品。(目録)
- 5/17 静岡県版画協会第1回展於静岡田中屋(-22)。(静岡 5/13, 18)
- 5/19 第25回白日会展於東京都美術館(-30)。塩澤祥悟、入選。(静岡 6/20)
- 5/ 采人社第1回展於静岡。(静岡 2/15, S26.10/7)
- 6/23 山本主計木版画展於静岡松坂屋(-30)。(静岡 6/23)
- 9/ 1 第34回二科展於東京都美術館(-19)。
北川民次《雑草の如くⅢ》
- 9/ 1 第34回院展於東京都美術館(-19)。
鈴木三朝《西里の晩秋》入選。(静岡 8/31)
中島多茂都《金時山》太田聰雨《家郷》
- 9/21 第2回創造美術展於東京都美術館(-10/10)。秋野不矩《少年群像》出品。(美術年鑑 22-26)
- 9/21 第13回新制作展於東京都美術館(-10/8)。
小谷祐三入選。(静岡 9/23)
- 10/ 1 春陽会展於静岡田中屋(-8)。
水谷清《毛布と裸婦》小栗哲郎《山の宿》富田武彦《オーケストラ》加山四郎《秋の庭》(静岡 10/1, 2, 3, 4, 5, 6)
- 10/ 6 井上恒也日本画個展於東京三越(-9)。

- 10/ 9 第17回独立展於東京都美術館(-27)。
山道栄助《土器(登呂)》《ストーンマンサークル》
- 10/ 9 第3回二紀会展於東京都美術館(-27)。
宮永武彦《黄衣》《銀座の舗道》
- 10/26 静岡市美術展第2回展於静岡田中屋(-30)。
(静岡 10/26)
- 10/29 第5回日展於東京都美術館(-11/21)。
野島青茲《博物館》特選。
(読売静岡 A, B版, 遠州版 10/27)
日展工芸の部へ大学出品。(毎日静岡版 10/15)
日展5科入選者。(毎日静岡版 10/27)
井上恒也《あをまな》野島青茲《博物館》赤城泰舒
《尾瀬沼長蔵小屋》島田四郎《K夫人の一行》藤本
東一良《青衣》藤井浩祐《少女立像》和田金剛《回
想》杉本宗一《化粧する裸婦》鈴木光彦《金工鑄起
蛇目文黄銅花瓶》二橋美衛《金工鳩象嵌置物》平
野利太郎《刺繍草花文壁掛》出品。
- 11/ 1 労働文化祭美術展於静岡田中屋(-6)。(静岡 11/1)
- 11/ 1 清水市美術展第1回展於清水小学校講堂(-3)。
- 11/18 高橋雲亭逝去。(静岡 11/20)
- 11/23 静岡県美術展第3回展於静岡松坂屋(-29)。
審査員: 太田聰雨、井上恒也、野島青茲、高島達四
郎、柏木俊一、青木達弥、小栗哲郎、山中散生、洪川
栄志、細井繁誠。(静岡 11/22, 24, 毎日静岡版 9/25,
11/19, 24, 25, 読売静岡 A, B版, 遠州版 11/24)
- 12/21 北蓮藏逝去。享年74。(美術年鑑 S 22-26)
- 12/ 北村西望《平和観音像》建立於清見寺。
(静岡 12/25)
- 12 /31 「文化団体 整理さる」(静岡 12/31)
- 1950 昭和25年**
- 1/11 新静美術会第3回展於静岡田中屋(-16)。
(静岡 1/11)
- 1/24 烏声画塾展於静岡田中屋(-29)。(静岡 1/21)
- 1/25 柏田[清川]泰次第3回油絵個展於東京資生堂
ギャラリー(-31)。
- 2/ 梅原龍三郎、三津風景絵葉書原画に自選の4作品
を提供。(読売静岡 A, B版 1/10)
- 2/14 柳宗悦講演会於県観光会館。(静岡 2/10)
- 2/18 北川民次、第2回アンデパンダン展(-3/8)委員。
(読売 S24.7/14)
- 2/ 浜松市公会堂の中島東洋作品破損。(静岡 2/27)
- 3/ 7 中村秀吉逝去。享年79。(静岡 3/10)
- 3/15 第1回秀作美術展於東京日本橋三越(-31)。
- 3/18 工芸品展示会於浜松松菱(-24)。(静岡 3/12)
- 3/25 CIE 図書館移転開館。(-27)。
(毎日静岡版 3/24, 静岡 3/20)
- 3/ 小栗哲郎、教職を退職し画業に専念。(毎日静岡版
3/25)
- / 牧野重信帰静。(毎日静岡版 3/25)
- 4/10 第27回春陽会展於東京都美術館(-26)。
栗田雄《静物》
- 4/10 第24回国画会展於東京都美術館(-25)。
曾宮一念《桜鳥》《阿蘇》《魚板》柏木俊一《伊豆早
春》洪川栄志《柘榴とザボン》《夜》山口源《黒と白
no.4》《ノンオブジェクト no.6》
- 4/13 柳田華紅画塾展於静岡商工会議所(-16)。
(静岡 4/15)
- 5/ 2 牧野重信・土橋玄一郎・鈴木惇介洋画三人展於
静岡田中屋(-7)。
(読売静岡 A, B版 4/30, 毎日静岡版 5/10)
- 5/10 静岡県版画協会第2回展於静岡田中屋(-14)。
- 5/14 第4回美術団体連合展於東京都美術館(-6/7)。
曾宮一念《桜鳥》高島達四郎《熱海梅園》(美術年
鑑 S.22-26)
北川民次《姉と妹》柏田[清川]泰次《浜辺の歌》山
道栄助《窓》菅野圭哉《静物》斎藤準児《風景》高島
達四郎《熱海梅園》久保田文吉《倉庫》佐野繁次郎
《休む女》赤城泰舒《寒雀》梅原龍三郎《狩野川》曾
宮一念《阿蘇》洪川栄志《緑窓女》二重作龍夫《ダ
モイ(再会図)》山口源《カタチ》猪飼重明《開拓地
にて》浅井昭《古い》出品。
- 5/15 郵政従業員美術展覧会於県歯科医師会館(-16)。
(静岡 5/16)
- 5/20 県西部美術展覧会第7回展於浜松松菱(-25)。
(読売遠州版 5/21)
- 5/23 第2回創造美術展於東京都美術館(-28)。秋野不
矩《少年》出品。
- 5/27 磐田美術協会第5回展於磐田市議会議事堂(-29)。
(読売遠州版 5/27)
- 5/29 中村岳陵、日本美術院に辞表提出。
(美術年鑑 S.22-26)

- 6/ 8 尾形月山《ペリ来航の図》米海軍に寄贈。
(静岡 6/8)
- 6/ 山中散生「シュールレアズム史観」出版。
(静岡 5/13)
- 6/ 杉山吉良写真展於静岡松坂屋(-30)。(静岡6/30)
- 7/13 高島達四郎、北海道へ旅行(-9月下旬)。
(読売静岡 A, B 版 8/30)
- 7/ 日本アンデパンダン静岡展於静岡松坂屋。
(静岡 7/3)
- 7/ 岡本太郎講演会於静岡県歯科医師会館。
- 8/ 曾宮一念、秋田県男鹿半島に旅行。
(読売静岡 A, B 版 8/30)
- 8/10 静岡市第4回夏季洋画講習会於城内中学校(-15)。
(静岡 8/11)
- 8/15 「八畳に一文字 米粒に四百字」沖六鷗青木幽溪
近況。(読売静岡 A, B 版 8/15)
- 8/ 堤達男《ペリー像》レリーフ。(読売静岡 A, B 版 S24,
10/18, 静岡 A 版 S25. 4/29, 静岡 6/30)
- 8/30 「芸術の秋静岡を覗く」
(読売新聞静岡版 A, B 版, 遠州版 8/30)
- 8/30 野島青菘「画家と時間」(静岡 8/30)
- 8/30 写実派協会第9回展於静岡田中屋(-9/3)。
(静岡 8/30, 9/3, 毎日静岡版 8/31)
- 9/ 1 「静岡よいとこ:富士宮市の曾宮さん」
(読売静岡 A, B 版 9/1)
- 9/ 1 第35回二科展於東京都美術館(-19)。
水野欣三郎、近江晁入選。(毎日 8/30)
北川民次《夏の小川》《森の泉》《かまど》出品。
(美術年鑑 S.22-26)
- 9/1 第35回院展於東京都美術館(-19)。
中島多茂都《信濃の山》太田聰雨《苔寺須弥山石》
- 9/ 5 七凡社展第18回展於静岡田中屋(-8)。
(静岡 9/3, 4, 7)
- 9/10 鈴木正典《悉平太郎像》(読売遠州版 8/25, 静岡版
A, B 版 9/13, 静岡 8/25)
- 9/15 岡田紅陽《獅子岩より望む富士》(読売静岡 B 版
9/15)
- 9/19 静岡市美術展第4回展於静岡田中屋(-24)。
(静岡 8/31, 9/22)
- 9/22 第3回創造美術展於東京都美術館(-10/8)。
秋野不矩《少年群像》
- 10/ 3 県労働文化祭芸術展第3回展於静岡田中屋(-8)。
(静岡 8/3, 9/28, 読売静岡 A, B 版 10/4)
- 10/ 4 駒田嘉一俳画展於浜松松菱(-8)。(静岡 10/6)
- 10/10 第18回独立展於東京都美術館(-27)。
豊田逸二、独立賞受賞。(静岡 10/16)
入選者発表。(静岡 10/10, 読売静岡 A, B 版 10/10)
山道栄助《冬瓜》《池辺》高島達四郎《春(熱海)》他。
- 10/10 第14回自由美術展於東京都美術館(-27)。
芹沢晋吾《或日の海浜》他入選。
(読売静岡 A, B 版 10/13)
- 10/13 笹尾好一個人展於静岡松坂屋(-18)。
(静岡 10/12, 14, 15)
- 10/21 高梨正洋画個展於大仁富士洋口(-23), 於沼津栄
進堂(11/1-3)。(毎日静岡版 10/20)
- 10/24 県下国宝展於静岡松坂屋(-29)。(静岡 10/22, 26)
- 10/29 第6回日展於東京都美術館(-11/28)。
青島淑雄《こども》小林正巳《山の道》島春潮《林泉
雨晴》平岡朴斎《漢字》野中鳴雪、友井篁邨、沖六
鷗。(毎日静岡版 10/26, (静岡 10/8)
堤達男ら出品。(静岡 10/8)
青島淑雄《こども》小林正巳《山の道》島春潮《林泉
雨晴》中村岳陵《気球揚る》赤城泰舒《尾瀬沼盛
秋》漆畑廣作《店先》島田四郎《少年笛を吹く》藤本
東一良《爪を切る女》二重作龍夫《静物》大村政夫
《青年》澤田政廣《十一面観音》杉本宗一《浴婦》鈴木
秀雄《東洋の舞》堤達男《平和のおとずれ》平野
富山《男立像》藤井浩祐《浴女》和田金剛《淵》鈴木
光彦《鍍金黄銅細口花瓶》二橋美衡《彫金黒味銅
毛彫象嵌秋草文香合》平野利太郎《刺繍花鳥壁
掛》出品。(美術年鑑 S.22-26*)
- 10/ 曾宮一念、阿蘇、長崎を旅行(-11)。
(読売静岡 A, B 版 8/30, S26.1/9)
- 11/ 4 澤田政廣《細田多次郎胸像》除幕式於磐田農高。
(読売遠州版 10/26)
- 11/ 5 朝倉文夫《岡野喜太郎像》除幕式於愛鷹公園。
(静岡 10/12)
- 11/ 8 井上恒也日本画個展於東京三越(-12)。
(美術年鑑 S22-26)
- 11/12 大村美代吉《松永以志像》(静岡 11/12)
- 11/13 第4回椿会美術展於東京資生堂ギャラリー(-18)。
曾宮一念《男鹿小湾》出品。

- 11/19 清水市第2回美術展於清水小学校(-20)。
(静岡11/20, 読売静岡A, B版, 遠州版11/19)
- 11/20 浜松市立図書館開館。(静岡S22.7/3, S24.2/26, S25.10/26, 11/24)
水野欣三郎彫刻作品設置。(静岡11/28)
- 11/23 静岡県美術展第4回展於静岡松坂屋(-29)。
審査員:井上恒也、野島青茲、高島達四郎、柏木俊一、山中散生、山口源。(静岡9/17, 10/4, 11/6, 21, 23, S26.2/11, 毎日静岡版11/22, 23, 25, 読売静岡A, B版11/22, 25, 遠州版11/21, 25)
招待出品全廃をめくり紛糾。(静岡S26.2/11)
- 11/24 沼津市総合美術展於沼津東校香陵会館(-26)。
(静岡11/9, 毎日静岡版11/26)
- 11/24 志太郡総合美術展第5回展於藤枝小学校(-26)。
(静岡11/14, 26)
- 12/ 清水市美術協会創立総会。(静岡12/8)
- 12/ 5 原勝利「美術団体への希望」
(読売静岡A, B版12/5)
- 12/ 8 大久保婦久子革細工新作展示会於資生堂ギャラリー(-23)。
- 12/29 「本県画壇のあゆみ」(静岡12/29)
- 1951 昭和26年**
- 1/ 6 青木達弥個展於静岡松坂屋(-10)。
- 1/ 8 近藤浩一路新作展於京都ギャラリー(-17)。
- 1/ 9 曾宮一念「地獄と高森」
(読売静岡A, B版, 遠州版1/9)
- 1/16 県教職員美術展第4回展於静岡松坂屋(-21)。
(静岡1/21)
- 1/18 木之華会第1回展於静岡田中屋(-21)。
(毎日静岡版1/17, 静岡1/17, 21)
- 1/20 第2回選抜秀作美術展於東京日本橋三越(-31)。
中村岳陵《気球揚る》太田聰雨《苔寺須弥山石》
秋野不矩《少年群像》北川民次《夏の小川》高島達四郎《熱海梅園》。(美術年鑑S.27)
- 1/23 文部省、中村岳陵《気球揚る》(日展)、高島達四郎《熱海梅園》(連合展)買い入れ。(静岡1/24)
- 1/24 アメリカ絵画展於静岡田中屋(-2/1)。
(静岡1/28, 30)
- 1/ 蒼丘社結成。(静岡10/12)
- 2/ 4 近代フランス美術特別講座於静岡市公会堂。
講師:式場隆三郎、宮田重雄、植村鷹千代、森弥太丸。(静岡2/1)
- 2/ 6 静光会洋画展第4回展於静岡田中屋(-21)。
(静岡1/20, 2/6, 7, 毎日静岡版2/3)
- 2/ 7 柏田[清川]泰次個展於東京資生堂ギャラリー(-10)。(静岡2/7)
- 2/14 静岡県水彩画協会展第1回展於静岡田中屋(-18)。(静岡2/21, 10/13)
- 2/20 秋野不矩、第1回上村松園賞受賞。
(毎日静岡版2/22)
- 2/27 第3回アンデパンダン展於東京都美術館(-3/18)。
柏田[清川]泰次《イエロー・バランス》(読売静岡A, B版5/4)
鈴木明《田園》(読売静岡A, B版2/22)
青山弘子《お濠の土手》(読売静岡A, B版2/24)
太田重範《ゆあみ》(読売静岡A, B版2/25)
田中武《あ・ん》(読売静岡A, B版2/27)
豊田正巳《戦い》《分裂》(読売遠州版2/20)
- 3/ 6 尾崎三秀作モード写真展於浜松松菱(-18)。
(読売遠州版3/1)
- 3/25 宮尾しげお画・静岡県観光協会編「静岡県漫画めぐり」刊行。
- 3/27 堤達男《お吉観音像》開眼法要於下田長楽寺。
(毎日静岡版2/11*, 3/27*, 読売静岡A, B版2/15*, 6/24*)
- 4/ 1 第37回光風会展於東京都美術館(-16)。
赤城泰舒《秋(尾瀬沼)》藤本東一良《裸婦》《ペールの女》
- 4/ 8 朝倉文夫《高山樗牛胸像》再建建立。(静岡S24.8/11, S25.3/1, 10/9, S26.1/21, 3/2, 12, 4/9, 11, 7/18, 毎日静岡版S24.8/11, S25.11/25, S26.1/17*, 4/8*, 11/2*, S27.1/11*, 12/30, 読売静岡A, B版S25.10/5, 10)
- 4/12 春季院展於東京日本橋三越(-20)。
青木秀夫《伊豆早春》《街外れ》特選。(読売静岡A, B版4/21)
- 4/15 三島美術会岡本太郎講演会於三島北高。
(読売静岡A, B版4/6, 静岡4/8)
- 4/15 静岡市小谷画荘に洋画研究所開設。(静岡3/13)
- 4/17 総合美術展於静岡松坂屋(-22)。
(読売静岡A版4/17)

- 4/18 第28回春陽会展於東京都美術館(-5/4)。
小栗哲郎《川口の朝》《水門》
- 4/18 第25回国画会展於東京都美術館(-5/3)。
梅原龍三郎《柏山人像》(美術年鑑 S.27)
青木達弥《花》《静物》梅原龍三郎《柏山人像》柏木
俊一《月光》曾宮一念《浅雪》山口源《無意味なる
会話》《構図「一掬の水」》他。(静岡 5/9)
- 4/18 浜松教員クラブ美術展於浜松松菱(-22)。
(読売遠州版 4/20)
- 4/25 第3回日本彫刻家連盟展於東京都美術館(-5/9)。
浅井行雄《裸婦習作》和田金剛《首》太田重範《黒
布の女》澤田政廣《聖徳太子》《裸婦》飛岡文一《腕
を曲げて》《歌姫Hさん》(出品目録)
- 5/ 1 吉野不二太郎個展於静岡松坂屋(-6)。
- 5/11 水彩画連盟静岡県支部展第1回展於静岡松坂屋
(17)。古川弘、小堀進、長沢昇、春日部たすく、荒谷
直之介、牧原万之助他賛助出品。(毎日静岡版
5/10、静岡10/13、読売静岡A版 5/13)
- 5/12 赫土社第16回展於清水材木会館(-17)。
- 5/15 「お顔拝見：水野欣三郎氏」(読売遠州版 5/15)
- 5/16 イサム・ノグチ輸出向商品意匠研究懇談会於静岡
市工芸指導所。(読売静岡A版 5/15、静岡5/13)
- 5/22 第5回美術団体連合展於東京都美術館(-6/13)。
巻本辰夫(春陽)勝見宜夫(旺玄)吉野不二太郎
(国画)小谷祐三(国画版画部)(毎日静岡版5/20、
12/30)
青木達弥《黄色い花》赤城泰舒《尾瀬の雲》猪飼重
明《こまった季節》勝見宜夫《漁船》北川民次《ひば
りの丘》小谷祐三《静物A》曾宮一念《噴煙》《雨の
海》高島達四郎《暮色》藤本東一良《裸婦》二重作
龍夫《四月のある朝》巻本辰夫《パンのある静物》宮
永武彦《初夏の装》山口源《コンポジション51A》《同
51B》山道栄助《御神火》吉野不二太郎《とき》出品。
(美術年鑑 S.28)
- 5/ 県観光協会絵葉書。柏木俊一、曾宮一念、山村誠、
高島達四郎、小栗哲郎、滝澤清。(毎日静岡版5/13)
- 6/ 5 静岡市美術展第5回展於静岡田中屋(-10)。
(読売静岡A版 5/13、A、B版 6/1、3、8、静岡6/5)
- 6/ 6 堤達男《自由の樹を植えるために》県へ寄贈される。
(静岡6/7)
- 6/ 8 柏田[清川]泰次、渡米。
(静岡 5/5、読売静岡版 A、B 5/4)
- 6/10 写真派協会第10回展於静岡松坂屋(-17)。
(毎日静岡版 6/12、読売静岡 A、B版 6/13)
- 6/12 静岡県日本画協会展第1回展於静岡松坂屋(-17)、
於浜松松菱(20-24)。(毎日静岡版6/12、静岡6/13、
10/7、読売静岡版 A、B版 6/6、13、遠州版 6/15)
- 6/13 西部美術会展第9回展於浜松松菱(-17)。
(静岡 6/17)
- 6/19 静岡名刀百刀展於静岡松坂屋(-24)。
(静岡6/19、読売静岡 A、B版 6/21)
- 6/21 「花のバリの名を轟かせた磯谷兄弟」
(読売静岡 A、B版 6/21)
- 6/28 小笠原美術協会展於掛川平喜(-7/1)。
(読売遠州 6/22、23)
- 6/29 吉原美術協会展於星一百貨店(-7/5)。
(読売静岡A版 6/30、静岡7/11)
- 6/29 菊地秀美近作陶器展於静岡松坂屋(-7/1)。
- 7/ 1 浜松文化協会結成。(静岡7/6)
- 7/ 3 島田市洋画展第1回展於温知洞画廊・参繪荘・本
通商店街ショーウインドー(-10)。(静岡 6/6)
- 7/12 清水市美術協会第1回展於材木会館(-16)。
(静岡 7/13)
- 7/18 日仏米英連合写真展於静岡松坂屋(-24)。
(静岡 7/18)
- 7/26 県教育委員会洋画講習会(-28)。講師：小堀進。
(読売静岡 B版 7/21)
- 8/ 1 清流会美術展第7回展於沼津東高香陵会館(-3)。
(静岡7/22、8/7)
- 8/ 2 県貿易会館竣工。堤達男壁画《平和の訪れ》。
(静岡 S25.10/8、* 毎日静岡版 5/4)
- 8/ 8 燎原会展於静岡田中屋(-12)。
(静岡 8/7、15、10/5、読売静岡 A、B版 8/9)
- 8/12 和田英作、三保に住居・画室を建て移住。
- 8/15 鈴木惇介・井出孝・多々良勝博洋画三人展於静岡
田中屋(-18)。(静岡 8/15、読売静岡 A、B版 8/7)
- 9/ 1 第36回二科展於東京都美術館(-19)。
近江晁入選。(毎日静岡版 8/31)
北川民次《黒と灰色の風景》《花火を弄ぶ少女達》
《白い工場》出品。(みづゑ no.555)
- 9/ 1 第36回院展於東京都美術館(-19)。
鈴木三朝《赤松の林》野原東《長浜建樹像》長浜虎

- 雄《橋本音吉翁》入選。(毎日静岡版 8/31)
中島多茂都《仙石原村》
- 9/ 1 宮脇晴素描展・宮脇綾子アプリケ展於静岡松坂屋(-7)。(静岡8/31, 9/1, 2, 読売静岡A, B版 9/4)
- 9/ 5 藤田敏太、張間道彦近況。(読売静岡A, B版, 遠州版 9/5)
- 9/ 5 木之華会第2回展於静岡田中屋(-8)。(毎日静岡版 9/5, 読売静岡A, B版 9/2, 5, 静岡 8/31, 9/3)
- 9/ 8 吉田石堂、熱海に滞在。(静岡 9/8)
- 9/ 9 静岡県版画協会第3回展於静岡田中屋(-13)。(静岡8/31)
- 9/14 七凡会第19回展於静岡田中屋(-17)。(静岡8/31, 9/14, 30, 読売静岡A, B版 9/15)
- 9/21 第15回新制作展於東京都美術館(-10/7)。秋野不矩《裸婦》出品。
- 9/21 第13回一水会展於東京都美術館(-10/7)。稲川一郎《溪間》入選。(静岡 9/29, 毎日静岡版 9/29, 12/30, 読売静岡B版 9/29)
- 9/ 堤達男《お澄像》完成。(毎日静岡版 9/26, 読売静岡A, B版 9/26, 静岡9/26)
- 10/ 3 県労働文化祭第4回美術展於静岡田中屋(-7)。(毎日静岡版 9/25, 読売静岡A, B版 9/26, 静岡読売A, B版, 遠州読売 10/5)
- 10/ 烏羽清一、伊勢神宮漆箱制作。(静岡 10/3, 毎日静岡版 10/3, 静岡読売A, B版 S27. 1/9, 7/3)
- 10/12 美術講演会於県歯科医師会館。講師：外山卯三郎。(静岡 10/10)
- 10/12 静岡駅美術展第1回於静岡駅(-14)。(静岡 10/12)
- 10/15 「後藤清吉郎駿河半紙 玉堂も太鼓判 画箋紙として新登場」(毎日静岡版 10/15)
- 10/15 三島大社国宝展於三島大社宝物館(-31)。(静岡読売A, B版, 遠州読売 10/2, 12)
- 10/16 井上恒也個展於東京三越(-21)。
- 10/26 沼津市総合美術展第2回展於沼津東高(-28)。(毎日静岡版 9/23, 静岡 9/16, 10/30, 静岡読売A, B版 10/16, 27)
- 10/28 第7回日展於東京都美術館(-11/28)。中村岳陵、審査員。
鈴木満《裸婦》鳥居昇《少女》藤野嘉市《静物A》相良文雄《秋》漆畑廣作《母》入選。(静岡 10/26)
藤野嘉市《静物》入選。(静岡読売A, B版, 遠州読売 10/26)
- 藤野嘉市、鈴木満、鳥居昇入選、漆畑廣作、相良文雄、中野謙二。(毎日静岡版 10/26, 12/30)
大村政夫、堤達男入選。(毎日静岡版 10/28)
青島蘭芳[淑雄]《あひる》中村岳陵《孫》野島青茲《仮縫》赤城泰舒《姉妹》漆畑廣作《母》相良文雄《秋》島田四郎《笛》藤本東一良《裸婦》和田清《伊豆玄岳》大村政夫《少女》澤田政廣《五木之精》杉本宗一《青年像》藤井浩祐《裸婦》和田金剛《幽閑》中野謙二《紅蜀葵花の蔭絵笥》二橋美衡《机上裝飾黒味銅金彩獅子紋盾額》平野利太郎《刺繍二曲屏風(秋園)》(美術年鑑 S.27)
- 11/ 1 熱海市社会人アンデパンダン展第1回展於熱海市役所議場(-3)。高島達四郎、緒方掃庵特別出品。(静岡読売A, B版 10/14, B版 11/1, 静岡 11/2)
- 11/ 1 賀茂郡美術アンデパンダン第2回於下田校(-5)。堤達男ら特別出品。(読売静岡A, B版 9/9, 静岡読売A, B版 10/13, 11/9)
- 11/ 2 柳宗悦講演会於県庁。(毎日静岡版 11/13)
- 11/ 細井繁誠・森山三郎・栗原忠二展於三島大社宝物館(-S27.4)。(静岡読売A, B版 11/20)
- 11/ 3 焼津市総合美術展於焼津小学校(-4)。(静岡 10/26)
- 11/ 4 白隠禪師遺墨第2回展於原中学校。(静岡読売A, B版 11/2, 毎日静岡版 11/4)
- 11/ 8 静岡市歴代市長肖像画、再び掲げられる。(静岡 11/9, 毎日静岡版 11/10, 静岡読売A, B版, 遠州読売 11/10)
- 11/ 芹澤銈介主宰萌木会染もの展於静岡田中屋(-18)。(静岡 11/16, 静岡読売A, B版, 遠州読売 11/16)
- 11/16 日吉守近況。(静岡読売A, B版 11/16)
- 11/17 伊東市文化祭美術展於伊東西校。(静岡読売A, B版 11/11)
- 11/19 第5回榕会洋画展於東京資生堂ギャラリー(-24)。曾宮一念《向日葵》出品。
- 11/21 静岡県美術展第5回展於静岡松坂屋(-25)。(静岡 10/16, 11/20, 21, 毎日静岡版 10/27, 11/20, 21, 24 読売静岡A, B版, 遠州版 9/14, 静岡読売A, B版, 遠州読売 11/20, 21, 23)
審査員：太田聰雨、野島青茲、井上恒也、曾宮一念、高島達四郎、柏木俊一、山中散生、山口源。

- 11/24 「坐漁莊物語」(毎日静岡版 11/24)
- 12/ 1 三島市美術展第1回展於三島新日本劇場(-3)。
(静岡12/5, 静岡読売A, B版 11/14, 30)
- 12/ 3 第4回勤労者美術展於東京都美術館(-12)。
中島洗、入選。(静岡12/3)
- 12/ 6 通信美術展於浜松市商工会議所(-8)。
(静岡12/1, 遠州読売 11/27)
- 12/ 8 「田中比佐良、来5月に人形供養を計画」
(静岡12/8)
- 12/11 翠々会主催書道展於静岡松坂屋(-13)。
(静岡12/12)
- 12/11 らばん会第1回展於静岡松坂屋(-16)。
(静岡読売 AB版 12/11, 静岡 12/14)
- 12/30 「1951年の各界回顧 ⑥美術」(毎日静岡版 12/30)
- 1952 昭和27年**
- 1/ 2 小笠美術展第2回展於掛川町平喜百貨店(-11)。
(静岡S26.12/29)
- 1/ 4 静岡県百人初笑い漫画展於静岡松坂屋(-12)。
(静岡1/1)
- 1/11 「高山樗牛の碑 いしぶみ巡礼:2」
(毎日静岡版 1/11)
- 1/13 「木俣堯喬《平和の女神像》建立計画」
(静岡A, B版, 遠州版 1/13*)
- 1/15 細井繁誠個展於沼津丹沢楽器店(-)。
(静岡読売 B版 S26.12/26)
- 1/16 第3回選抜秀作美術展於東京日本橋三越(-2/3)。
北川民次《ひばりが丘》高島達四郎《暮色》
(出品目録, 美術年鑑S.28)
- 1/19 焼津玉之浦書院第2回試作展於焼津市饗節会館
(-20)。(静岡 1/17)
- 1/20 山道栄助個展於静岡カメヤ(-27)。(静岡 1/18)
- 1/21 鶴田吾郎《鈴木訓導殉職の図》(毎日静岡版 1/17)
- 1/21 「下岡蓮杖の碑 いしぶみ巡礼:12」
(毎日静岡版 1/21)
- 1/31 「金原明善翁碑 いしぶみ巡礼:21」
(毎日静岡版 1/31)
- 2/ 石井柏亭、長谷川昇、奥瀬英三ほか《新富岳三十六景》の写生。(毎日静岡版 2/17)
- 2/16 第12回美術文化協会展於東京都美術館(-26)。
古田晴久《たえなる調べ》《原子力の恐怖》猪飼重
明《夜の歌》《火の森》《たわむれ》《舞い》《二つの平和》《謎》(美術年鑑S.28)
- 2/19 新春写真アンデパンダン於静岡松坂屋(-21)。(静岡読売A, B版, 遠州読売 1/16, 19, 22, 31, 2/7, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 19)
- 2/19 県教員美術第5回展於浜松松菱(-20)。
(静岡2/1, 20, 静岡読売A, B版, 遠州読売 2/3)
- 2/28 藤本東一良洋画展於大阪阪急(-3/4)。
(美術年鑑S.28)
- 3/ 1 春季二科展於東京銀座松坂屋(-12)。
北川民次《二人の平和な少女》出品。
- 3/15 川端龍子《玉取り籠》据付於修善寺宝物殿。
(毎日静岡版3/18, 遠州読売 3/19)
- 3/18 静岡市文化懇談会於静岡市公会堂(7, 10, 13, 14, 20, 24, 26)。(静岡3/4, 15, 4/29)
- 3/ 大石隆正作六曲屏風、ファーレル少佐へ寄贈。
(静岡3/21, S28.2/7, 5/14)
- 3/22 清水市立図書館完成。(毎日静岡版1/26, 静岡読売A, B版, 遠州読売 2/7, 3/19)
- 3/28 静流会春季小品美術展於沼津松菱(-30)。
(静岡3/29, 毎日静岡版 3/28)
- 4/ 1 第30回光風会展於東京都美術館(-16)
赤城泰舒《花》藤本東一良《裸婦》和田清《風景》
《人物》(美術年鑑S.28)
- 4/ 1 武器名宝展於静岡松坂屋(-7)。(静岡4/1, 3, 6)
- 4/ 3 あかね会春季絵画作品展於島田温洞(-7)。
(毎日静岡版4/3)
- 4/8 新制作春季展於東京日本橋三越(-12)。
秋野不矩《少女》出品。
- 4/18 第26回国画会展於東京都美術館(-5/4)。
青木達彌《花A》《花B》柏木俊一《月夜》洪川榮志
《黄花》《静物》曾宮一念《御前崎燈台》《波》野田好子
《コンポジション》《花》吉野不二太郎《トルソ》芹澤
銈介《型染葛布丹敷地》《同おぼろ》《帯地紅型》
《帯地黄茶地亀甲文》《宝つくし布団地》伊藤勉《赫
日群像》栗山茂《貝族》《躍動の前》中川雄太郎《芸
術祭》山口源《コンポジション・海港にて(A)》《コンボ
ジション・海港にて(B)》(出品目録)
- 4/18 第29回春陽会展於東京都美術館(-5/4)。
藤野嘉市、静川長次新入選。鈴木明、狩野幹夫、
巻本辰夫再入選。(毎日静岡版 4/18)

- 林芳雄入選。(毎日静岡版 4/19)
井上重生《漁港》《とんがらしの静物》《パイプの通っている風景》小栗哲郎《滝》《大滝》狩野幹夫《自動車のある風景》栗田雄《静物》藤野嘉市《静物》《出品目録》
- 4/18 第20回日本版画協会展於東京都美術館(-5/4)。
伊藤勉《こども》《裏街》山口源《コンポジションno.17》《コンポジションno.18》《コンポジションno.19》《窓》《秋に憶ふ》(美術年鑑S.28)
- 4/18 静光会展於静岡松坂屋(-23)。(静岡4/19, 20)
- 4/ 国際観光美術協会(会長石井柏亭)《新富岳三十六景》の一部展示於東京駅。近藤浩一路《田子浦》石井柏亭《日本平の富士》奥瀬英三《達磨山の富士》(毎日静岡版 4/16)
- 4/19 フランス美術講演会於静岡市公会堂。講師:吉川逸治。(静岡 4/15)
- 4/19 清水市美術協会展於清水木材会館(-23)。(静岡読売A, B版 4/13, 静岡4/21)
- 4/ 佐藤勝輔《狐》《大黒》《寿老》他1点義捐。(静岡読売A, B版, 遠州読売 4/23)
- 4/25 静岡県日本画協会小品展於静岡松坂屋(-30)。(静岡4/29)
- 4/27 焼津市総合美術展於焼津市公会堂(-29)。(静岡4/23)
- 4/29 静岡CIE図書館閉館、5/7 アメリカ文化センターとして再開。(静岡4/26, 毎日静岡版 4/27, 静岡読売A, B版, 遠州読売 4/27, 5/7)
- 5/ 1 古陶文化展於静岡松坂屋(-7)。(遠州読売 4/18, 静岡 5/1)
- 5/ 3 《榮西禪師像》除幕式於油山寺。(遠州読売5/5*, 静岡S25. 9/26, 11/28, S27. 5/6)
- 5/ 自由画協会展於静岡松坂屋(-9)。(静岡 5/7)
- 5/ 4 静岡チャールズ会発足於静岡小谷画荘。講師:青木達弥。(静岡4/26)
- 5/ 木村鐵應近況。(静岡 5/6)
- 5/ 笹尾好一近況。(静岡 5/9)
- 5/11 宮尾しげお, 興津魚周揮毫於静岡浮月。(静岡4/11, 5/10)
- 5/11 チャールズ会浜名湖写生旅行。宮田重雄, 宮本三郎, 伊原宇三郎他来浜。(静岡5/3, 12, 遠州読売 5/13)
- 5/15 赫土社第17回展於清水木材会館(-19)。(静岡5/16)
- 5/ 戸田吉三郎個展於清水戸田書店。(静岡 5/16)
- 5/16 貞明皇后寄進画帖公開於三島大社。(静岡 5/16)
- 5/ 《金沢光濟胸像》除幕式於磐田北高。(遠州読売 4/18)
- 5/22 第1回日本国際美術展於東京都美術館(-6/13)。
秋野不矩《子供と魚》北川民次《瀬戸の工場裏》高島達四郎《春》《麦》(美術年鑑S.28)
- 5/24 磐田市美術展於磐田市公民館(-26)。(遠州読売 5/15, 静岡 5/20)
- 6/ 1 県水彩連盟静岡支部第2回展於静岡静岡松坂屋(-6)。
丸山晚霞, 中西利雄参考出品。(静岡読売A, B版 5/29, 静岡6/1, 2)
- / 宇野逸雲《浅間神社》静岡駅に寄贈。(静岡読売A, B版 6/5*, 静岡 6/5)
- 6/ 5 作家と漫画家の耳で聞く文芸講演会於静岡市公会堂。(静岡 6/6)
- 6/ 井上恒也個展於静岡松坂屋(-15)。(静岡 6/11)
- 6/ 杉山良雄水彩画展於掛川平喜(-18)。(静岡 6/16)
- 6/20 降旗俊三郎個展於静岡松坂屋(-23)。(静岡読売A, B版 6/20, 静岡 6/20)
- 6/27 集団フォト第2回展於静岡松坂屋(-7/2)。(静岡6/21)
- 6/28 第6回旺女会展於東京都美術館(-7/9)。
獅子吼真《稲取港》(美術年鑑 S.28)
- 7/ 1 静岡県水彩画協会第2回展於静岡松坂屋(-6)。(静岡6/29, 7/4, 毎日静岡版 6/30, 静岡読売A, B版 7/1)
- 7/ 早川実個展於清水戸田書店(-7)。(静岡読売A, B版 7/2, 静岡 7/4)
- 7/ 5 堤達男《岩長姫尊》納入式於雲見神社。(静岡読売A, B版 7/18)
- 7/ 石川寅治《千本より富士を望む》を沼津市購入。(静岡 7/9)
- 7/ 沖六鶴近況。(静岡読売A, B版 7/10)
- 7/11 現代日本画展於静岡松坂屋(-18)。(静岡7/9, 11, 12)
- / 張問禧一, 新村撰吉, アメリカの展覧会に出品。(静岡 7/13)
- 7/19 葵文庫, 県教育会館, 米軍接收解除。

- (静岡読売A, B版 7/19, 毎日静岡版 6/10)
- 7/23 増田大罌展於静岡松坂屋(-27)。(静岡 7/18)
- 7/25 洋画夏季講習会於浜松西美絵画研究所。講師：原精一他。(遠州読売 7/20)
- 7/27 第4回日本彫刻家連盟展於東京都美術館(-8/8)。浅井行雄《首》澤田政廣《コンポジション》飛岡文一《父の像》(出品目録)
- 7/ 入江長八展於松崎町。(静岡 7/23, S28.5/3, 8/11)
- 8/ 1 写実派協会第11回展於静岡松坂屋(-6)。(静岡読売A, B版 7/29, 静岡 8/3)
- 8/ 3 堤達男《清水次郎長像》除幕式於清水梅陰寺。(静岡S26.6/24, 7/13, 11/23, S27.8/3, 11/23, 毎日静岡版S26.11/24*, S27.3/26, 4/9*, 静岡読売A, B版, 遠州版S26.11/23*, 遠州版S27.7/26)
- 8/ 9 中川雄太郎版画展於清水戸田書店(-15)。(静岡読売A, B版 8/8)
- 8/ 9 沖六鷗書道展於静岡松坂屋(-15)。(静岡 8/7)
- 8/10 小原栄造《三浦安針肖像》伊東市立図書館へ寄贈。(静岡読売A, B版, 遠州読売 7/31)
- 8/26 歌麿生誕二百年記念浮世絵展於静岡松坂屋(-30)。(静岡8/24, 28)
- 9/ 1 第37回二科展於東京都美術館(-19)。北川民次《窯と働く人々》《少女とキリギリス》*出品。(みづみ no.567*, 美術手帖no.61**, 美術年鑑S.28*) 芹沢吾吾《死》入選。(静岡読売, 遠州読売 10/12)
- 9/ 1 第37回院展於東京都美術館(-19)。太田聴雨《飛天》中島多茂都《万座峠》(美術年鑑S.28)
- 9/ 2 静岡市美術展覧会第6回展於静岡田中屋(-8)。(静岡 7/5, 8/26, 9/26)
- 9/ 細井繁誠展於沼津丹沢楽器店(-28)。(静岡読売A, B版 9/19)
- 9/ 杉山裕安《徳富蘇峰像》制作。(毎日静岡版 9/19)
- 9/21 第16回新制作展於東京都美術館(-10/7)。秋野不矩《立てる女》出品。
- 9/16 森山三郎漫画展於沼津丹沢楽器店(-28)。(静岡9/2)
- 9/ 静岡市民美術展於静岡田中屋(-29)。(遠州読売 9/27)
- 10/ 1 河瀬道雄洋画展於沼津丹沢楽器店(-28)。(静岡読売A, B版 9/19)
- 10/ 8 第6回二紀展於東京都美術館(-26)。伊藤卓二入選。(静岡10/5) 宮永武彦《海女》《いけばな展》
- 10/ 9 第20回独立展於東京都美術館(-26)。松永登、内田公雄初入選。(静岡10/5)
- 10/ 9 第16回自由美術展於東京都美術館(-26)。豊田正己、篠田英子、中田静江、初入選。(静岡10/8)
- 10/ 9 伊東市文化祭美術展於伊東市立図書館他(-23)。(静岡読売A, B版 10/30, 11/13, 18)
- 10/13 三島妙法華寺宝物館開館。(毎日静岡版8/20, 静岡 8/26)
- 10/13 芹沢吾吾油絵展於三島ラ・ペー(-24)。(静岡読売A, B版, 遠州読売10/12, 遠州読売 10/17)
- 10/14 井上恒也日本画展於東京日本橋三越(-19)。(美術年鑑S.28)
- 10/16 労働者文化祭美術展於静岡市労政会館(-22)。(静岡10/16, 遠州読売 10/18)
- 10/ 新村撰吉近況。(静岡 10/18)
- 10/ 大石隆正近況。(静岡 10/19)
- 10/18 南風美術展於下田小学校。(静岡読売 10/12)
- 10/29 第8回日展於東京都美術館(-12/1)。堤達男《風》(静岡 10/14) 野島青茲《塑像》(静岡 10/17) 萩原青陵初入選。(静岡 10/25) 太田京子初入選。(静岡10/26, 毎日静岡版10/26) 鈴木敏夫初入選。(静岡 10/26) 森正一《清水港》(静岡10/28, 毎日静岡版10/28) 池邊瑠璃子入選。(静岡 10/29, 毎日静岡版10/28) 長谷川彰一《駅》入選。(静岡12/2) 青島淑雄《校庭》鈴木秀光《青紙の滝》萩原青陵[元次郎]、梶多須良、大内敏雄、友井敏雄、望月茂、野中鳴雪、山崎大抱、島津半仙、櫻井桂一郎入選。(毎日静岡版 10/26) 和田清、堤達男、大村政夫入選。(毎日静岡版 10/28, 静岡10/28) 青島淑雄《校庭》鈴木秀光《青紙の滝》野島青茲《塑像》漆畑廣作《薬師如来》島田四郎《T氏写生》藤本東一良《椅子による女》二重作龍夫《午下り》長谷川彰一《駅》水野以文《早春の池》森正一《清水港》和田清《初秋風景》浅井行雄《男性立像》池

- 邊瑠璃子《少女頭像》澤田政廣《三華》杉本宗一《牛頭》堤達男《風》藤井浩祐《浴女》和田金剛《流藻》二橋美衛《彫金黒四分一金彩瑠烏置物》平野利太郎《刺繍衝立(閑庭)》松井よし子《手織つづれ壁掛べりかん》大田京子書、出品。
- 11/ 1 三島市美術展第5回展於三島大社宝物館(-5)。(静岡読売, 遠州読売 10/17)
- 11/ 1 熱海市民アンデパンダン第2回於熱海市議堂(-3)。(静岡読売, 遠州読売 10/17)
- 11/ 1 朝倉響子《エレヌ夫人レリーフ》除幕式於三保。(静岡 10/29, 11/2, 毎日静岡版 11/2*, 静岡読売 A, B版 S26.12/25, S27.1/14, 2/2, 5/2, 10/9, 31, 遠州読売 10/3, 10/31*)
- 11/ 7 美術アンデパンダン第2回於下田小学校(-9)。(静岡読売 A, B版 9/24)
- 11/ 7 沼津市総合美術展於沼津東高(-9)。(遠州読売 11/1)
- 11/14 三澤佐助回顧展於静岡松坂屋(-16)。(毎日静岡版 11/14, 静岡 11/15)
- 11/15 第6回椿会洋画展於東京資生堂ギャラリー(-20)。曾宮一念《けし畑》出品。
- 11/17 「曾宮一念 県下各界百傑伝」(静岡 11/17)
- 11/19 静岡県美術展第6回展於静岡松坂屋、田中屋(-23)。審査員:井上恒也、野島青茲、寺平誠介、下田舜堂、鈴木三朝、柏木俊一、高島達四郎、曾宮一念、小栗哲郎、山中散生、山口源、青木達弥、堤達男、大村政夫、杉本宗一。
彫刻部門を新設。(静岡9/18, 22, 11/4, 18, 19, 20, 26, 毎日静岡版 11/18, 19, 20, 26, 毎日遠州版 11/18, 19, 20, 21, 25, 26, 静岡読売A, B版, 遠州読売11/20)
- 11/21 直木支次郎個展於下田公民館(-23)。(静岡読売 11/21)
- 11/26 静岡県版画協会第4回展於静岡吉見書店(-30)。(静岡11/29)
- / 二橋美衛《大黒天》頒布会。(静岡12/6)
- 12/ 5 曾宮一念、青木達弥、山口源三人展於浜松市図書館(-7)。(静岡 12/6)
- 12/10 北川民次「絵を描く子供たち」刊行。
- 12/13 川端龍子《玉取籠》開眼於修善寺。(静岡 12/15, 毎日静岡版 3/18, 静岡版・遠州版 12/15)
- 12/ 江尻九穂、富士山作品頒布。(静岡 12/12)
- 12/21 「杉本宗一 県下各界百傑伝」(静岡 12/21)
- 1953 昭和28年**
- 1/ 堤達男塑像展於静岡松坂屋(-8)。(静岡S27.10/12, S28.1/4, 10, 毎日静岡版1/8)
- 1/ 内田六郎近況。(静岡 1/8)
- 1/ 8 「川村驥山 県外在住名士の年賀便り」(毎日静岡版 1/8)
- 1/ 8 書道名流展於静岡吉見書店(-15)。(静岡 1/8)
- 1/13 日米文化センター開館。(静岡 1/13, 毎日静岡版 1/31, 静岡読売 A, B版, 遠州読売 S27.12/22, S28.1/10, 14)
- 1/20 独立書道展於東京都美術館(-24)。友井篁村、平岡朴齋、森田安次、山崎大抱、会員となる。(静岡 1/23)
- 1/23 エドワード・ウエストン写真展於静岡吉見書店(-29)。(静岡 1/23, 静岡読売, 遠州読売 1/24)
- 1/28 第4回選抜秀作美術展於東京日本橋三越(-2/8)。北川民次《かまどと働く人々〔窓と働く人々〕》秋野不矩《立てる女》太田聰雨《飛天》高島達四郎《浅間山》
- 1/28 一土会主催美術講演会於静岡市公会堂。講師:北川民次。(静岡読売, 遠州読売 1/11)
- 2/ 1 高梨正油絵展於沼津丹沢楽器店(-30)。(静岡読売 2/1)
- 2/ 7 教職員美術展第6回展於静岡松坂屋(-11)。(静岡読売 2/6)
- 2/ 伊藤孝三個展於浜松市図書館(-18)。(遠州読売 2/15)
- 2/14 浜松新十景写真展於浜松松菱(-20)。(静岡 2/16)
- 2/18 静岡市書道展第1回展於静岡田中屋(-20)。(静岡2/17, 静岡読売1/28)
- 2/20 書道芸術院移動展於静岡松坂屋(-22)。(静岡読売, 遠州読売 2/17, 20, 静岡 2/20)
- 2/21 はぐま会第3回展於磐田労基署普及会館(-23)。(毎日遠州版 2/25, 遠州読売 3/19)
- 2/24 久末季雄個人展於静岡吉見書店(-3/1)。(静岡 2/24, 25)
- 2/25 斉藤寿夫知事、横山大観に県民会館に展示の絵画を依頼。(静岡読売 2/26)

- 2/25 静岡市文化懇談会於静岡市役所。(静岡 2/26)
- 3/ 2 村上国夫来浜。(静岡3/3, 静岡読売, 遠州読売 3/4)
- 3/ 3 二科春季展於東京銀座松坂屋(-10)。
北川民次《多美子の像》出品。(みづね no.573)
- 3/ 7 第13回美術文化展於東京都美術館(-18)。
井上市三郎初入選。(静岡 3/7)
猪飼重明《あかし》《遁走曲》《あきれた人々》《リメンバー》《フェニックス》《いきどおり》《おろかな会談》《ナンセンス》古田晴久《宇宙祖》《ピアノ狂奏曲》《黎明》《カッパ》《ノン・フィグラ》《さるかに合戦》
- 3/ 7 日仏文化の会発会於静岡松坂屋。
(静岡2/25, 3/4, 11)
- 3/ 8 「紙上写真展」柳田美美緒、福島一信、外池英一郎、朝倉一夫。(静岡3/8, 11, 25, 4/11, 22, 26)
- 3/18 チャーチル会ペンテル画展於浜松松菱(-22), 於静岡松坂屋(25-31), 於浜松榛屋(4/3-9), (静岡読売 A版 3/18, 静岡 3/21, 26, 4/4)
- 3/18 高須光治油絵個人展於浜松市立図書館(-22)。
(静岡 3/8)
- 3/21 《増田次郎像》除幕式於万蔵寺。(静岡 3/22)
- 3/27 近代日本美術回顧展於京都市美術館(-4/19)。
近藤浩一路《広沢雨余》秋野不矩《砂上》
- 3/27 内田六郎氏提供長崎版画展於浜松市立図書館(-29)。(静岡 3/8)
- / 黎泉居洋画研究所開設於静岡市東稲川町。細井繁誠、高島茂雄指導。(静岡3/28)
- 4/ 1 第39回光風会展於東京都美術館(-16)。
藤本東一良《花かざる女》和田清《冬の或る日》《熱海玄岳》
- 4/12 堤達男《ハリス記念像》《ベルリ記念像》レリーフ除幕式。(毎日静岡・遠州特集版3/19, 遠州読売1/7, 4/7, 5/22, 静岡 5/22)
- 4/14 新制作春季展於東京日本橋三越(-19)。
秋野不矩《花》出品。
- 4/17 第30回春陽会展於東京都美術館(-5/4)。
入選者発表。(静岡読売 4/14)
井上重生《黄色い家》《灯台と漁船》狩野幹夫《堀の内》小栗哲郎《福浦港早春》《福浦港》静川長次《静物》藤野嘉市《静物》牧本辰夫《果物入》。
- 4/18 第27回国画会展於東京都美術館(-5/4)。
青木達弥《花》東克己《朝》柏木俊一《ざる碁》渋谷
- 栄志《静物》《チャボ》曾宮一念《梨》《時化のあと》
野田好子《海辺の空に浮いた花》《飛翔》吉野不二太郎《かみをすく》
- 4/18 第21回日本版画協会展於東京都美術館(-5/3)。
山口源《ある視野(A9)》《ある視野(B)》《一隅》《作品36B》《作品35A》《童話的幻想》《カタチ》栗山茂《作品53-5》《作品52-7》《作品53-7》《作品52-10(いか)》中川雄太郎《まちのおんな》《埋立予定地》
- 4/22 水彩画連盟静岡支部第3回展於静岡松坂屋(-26)。
(静岡 4/23)
- 4/24 長八仮記念館開館於松崎浄感寺。
(遠州読売 4/24, 静岡 5/3)
- 4/27 第1回日本彫塑展於東京都美術館(-5/9)。
藤井浩祐《H嬢》《浴女》長澤幸雄《立雛》太田重範《ツノ牛》杉本宗一《裸婦》《裸婦(二)》浅井行雄《裸婦立像》《首》澤田政廣《姉妹》
井戸義夫《女の首》飛岡文一《M氏の像》《小松平五郎先生》(出品目録)
- 4/29 日本観光写真連盟撮影会於富士山麓。
(静岡読売 4/25)
- 5/ 外池英一郎人物写真展於静岡吉見書店(-10)。
(毎日静岡版5/7, 静岡読売 5/5)
- 5/ 6 双彩会展於静岡松坂屋(-10)。
(毎日静岡版5/7, 静岡 5/7)
- 5/ 9 萩原井泉来静。(静岡 5/10)
- 5/ 一色梨郷近況。(静岡 5/13)
- 5/13 全日本学生染色展於静岡松坂屋(-17)。(静岡 5/13)
- 5/16 堤達男彫刻展於沼津丹沢楽器店(-)。(静岡 5/17)
- 5/20 第2回日本国際美術展於東京都美術館(-6/8)。
曾宮一念《三角岩》北川民次《三河花祭りの鬼》秋野不矩《五月》出品。
- 5/20 藪野正雄個展於静岡松坂屋(-24)。(静岡5/19, 21)
- 5/22 澤田政廣《三華》、日本藝術院賞受賞。
- 5/31 杉山隆一、那須良輔、下田に釣りに訪れる。
(毎日静岡版 6/3)
- 6/ 1 木之華会絵画展於静岡吉見書店(-7)。
(静岡 5/26, 静岡読売 A, B版 5/27)
- 6/ 5 東西新作日本画展於三島大社宝物館(-20)。
(静岡 6/2)
- 6/ 5 レオナルド・ダ・ヴィンチ複製画展於浜松市図書館(-7), 於熱海市公会堂(8-10)。

- (毎日静岡版6/3, 静岡読売6/1)
- 6/5 増田大罌水彩画展於静岡松坂屋(-7)。
(静岡6/3, 毎日静岡版6/5, 読売静岡6/1, 9)
- 6/10 静岡市美術展第7回展於田中屋(-14)。
(静岡読売, 遠州読売6/10, 4/20, 静岡6/10)
- 6/10 静岡県版画協会第5回展於静岡松坂屋(-14)。(静岡読売6/5)
- 6/10 第41回日本水彩画会展於東京都美術館(-21)。
入選者発表。(静岡6/10, 朝日静岡版6/10)
- 6/10 清水秀耕肖像画展於浜松光和堂写真機店(-16)。
(毎日遠州版6/5, 10)
- 6/13 近藤浩一路水墨三十周年回顧展於東京日本橋三越(-21)。(美術年鑑S.29)
- 6/14 静光会洋画講習会於静岡市城内(21, 28)。講師:
高間惣七、田辺嘉重。(静岡6/9, 13)
- 6/16 現代大家日本画風物十二ヶ月版画展於松坂屋(-21)。(静岡6/16, 19)
- 6/17 静岡アンデパンダン第1回展於静岡松坂屋(-21)。
(静岡5/31, 6/21, 毎日静岡・遠州版6/17, 静岡読売6/17, 朝日静岡版5/7)
- 6/ 馬堀喜孝《ハリス肖像》完成。(静岡5/28, 6/22, 7/2, 静岡読売7/1)
- 6/ 朝倉文夫《岡野喜太郎胸像》完成。(静岡6/23)
- 6/24 井波彫刻展於静岡松坂屋(-28)。
(静岡6/23, 25, 毎日静岡版6/25)
- 6/28 《平和観音像》完成。(静岡S27.1/13, 6/1, S28.5/29, 6/29, 10/1)
- 7/1 堤達男《平和の女神と天馬》完成於沼津市産業会館。(静岡6/11, 30, 12/18*, 朝日静岡版6/11)
- 7/1 写実派協会第12回展於静岡松坂屋(-5)。
(静岡読売6/30)
- 7/3 静流会展於沼津東高(-5)。(毎日静岡版7/4, 静岡読売7/1)
- 7/ 鈴木福富近況。(静岡読売7/4)
- 7/9 新水彩画協会浜松支部作品展於浜松市図書館(-12)。(遠州読売7/1)
- 7/10 鈴木三朝展於浜松市図書館(-12)。(毎日遠州版7/10, 遠州読売7/1)
- 7/ 鈴木啓治《ひめゆりの像》完成。(静岡7/12)
- 7/15 森山三郎水彩画展於沼津丹沢楽器店(-29)。
(静岡読売7/15)
- 7/16 日米合同写真展於静岡松坂屋(-19)。
(静岡読売7/14, 朝日静岡版6/25)
- 7/17 かっぱまつり於静岡松坂屋(-19)。(静岡7/18)
- 7/19 水害義捐揮毫会於静岡松坂屋。(静岡7/14, 17)
- 7/ 日吉守、朝鮮風俗版画制作。(静岡読売7/29)
- 7/ 北川民次「子どもの絵と教育」刊行。
- 8/1 静岡市夏季洋画実技・図画工作教育講習会於静岡城内小(-3)。講師:山道栄助、坂上明司、井上長三郎。(静岡読売, 遠州読売7/15)
- 8/11 狩野幹夫個人展於静岡吉見書店(-16)。
(静岡8/10)
- 8/12 静岡県水彩画協会第3回展於静岡松坂屋(-16)。
(静岡8/13, 静岡読売A, B版7/11)
- 9/1 第38回院展於東京都美術館(-19)。
鈴木大麻《南伊豆》三浦幸雄《上野光男氏像》長浜虎雄《若人》《たかお君の像》妹尾巖《赤木顕次さん坐像》入選。(静岡8/31, 9/25)
- 太田聰雨《青年》中島多茂都《七面鳥》(美術年鑑S.29)
- 9/1 第38回二科展於東京都美術館(-19)。
北川民次《陶工》(美術年鑑S.29)
- 北川民次《降霊術者[降霊術]》《陶工》出品。
- 9/1 第8回行動展於東京都美術館(-19)。
入選者発表。(静岡8/28)
- 9/21 第17回新制作展於東京都美術館(-10/7)。
秋野不矩《坐す》出品。(美術年鑑S.29)
- 9/21 第15回一水会展於東京都美術館(-10/7)。
北野熊雄《風景》(静岡S29.11/26)
- 9/25 三島絵画教室展覧会於三島大社宝物館(-27)。
(静岡9/21, 25)
- / 写実派協会研究所開設於静岡顕光院。
(毎日静岡・遠州特集版10/4)
- 10/1 堤達男《悲母親音像》開眼於下田長楽寺。
(静岡10/3, 毎日遠州版10/3)
- 10/1 壮炎会展於浜松市図書館(-4)。(遠州読売10/1)
- 10/5 写実派協会小品展於静岡吉見書店(-18)。
(毎日静岡版10/16)
- 10/7 県労働文化祭美術展第8回展於静岡田中屋(-12)。
(静岡10/5, 8)
- 10/9 第21回独立展於東京都美術館(-26)。
土井俊泰、中村弘、小田切正三、河原新一、内田公

- 雄、河口洋太郎、稲森祐一、八木昌一、宮崎万平、入選。(静岡10/7, 8)
八木昌一《お茶工場》《江の浦風景》(静岡 10/7)
- 10/ 9 第7回二紀会展於東京都美術館(-26)。
水野欣三郎入選。(静岡10/7)
佐野繁次郎、宮永武彦他。
- 10/ 9 第17回自由美術展於東京都美術館(-26)。
中村宏、村上淑郎、築地進、早川実、入選。
(静岡10/8)
- 10/ 板谷房近況。(静岡 10/16)
- 10/ 沖六郎・青木幽溪・平岡朴斎書道展於静岡吉見書店(-25)。(静岡読売 10/23)
- 10/22 第6回労働者文化祭東部美術移動展於三島大社宝物館(-26)。(静岡 10/18)
- 10/22 鈴木和夫スケッチ展於清水戸田書店(-26)。
(静岡10/22, 毎日静岡版10/23)
- 10/23 沼津市総合美術展於東高校香陵会館(-28)。
(静岡10/24, 朝日静岡版8/29)
- 10/27 井上恒也日本画展於東京日本橋三越(-11/1)。
- 10/29 第9回日展於東京都美術館(-12/1)。
平野利太郎、日展審査員となる。(毎日静岡・遠州版 6/12, 静岡読売 6/12)
青島淑雄、鈴木秋秀入選。(静岡 10/24)
森正一《埠頭驟雨》(静岡10/25, 毎日静岡・遠州版 10/27*)
伊藤雅子入選。(静岡 10/26)
水野光太郎、伊藤雅子、大橋儀左衛門入選。
(毎日静岡・遠州版 10/27)
青島淑雄《酒場》鈴木秀光《杉道》中村岳陵《窓辺》
野島青茲《生簀》赤城泰舒《ある日の訪問者たち》
漆畑廣作《観音》斎藤大《桐咲く》藤野嘉市《静物》
水野以文《初秋の池》森正一《埠頭驟雨》和田清
《熱海風景》浅井行雄《裸婦立像》池邊瑠璃子《い
でゆ》大村政夫《緑風》澤田政廣《愛子母》杉本宗
一《女子像》堤達男《風》平野富山《青年》藤井浩祐
《女の顔》和田金剛《天平》伊藤雅子《海辺》二橋美
衡《彫金籠銀鹿置物》松井よし子《手織壁掛「浜木
綿」》水野光太郎《四季草花屏風》(美術年鑑S.29)
- 10/ 平岡朴斎小品展於静岡吉見書店(-11/1)。
(毎日静岡版10/29)
- 11/ 1 熱海市民アンデパンダン於熱海市公会堂(-3)。
(朝日静岡駿豆版11/2, 静岡読売 10/28)
- 11/ 1 佐野儀一《望月軍四郎胸像》除幕式於富士宮北高。
(毎日静岡版8/6*, 11/1, 静岡読売, 遠州読売8/6)
- 11/ 1 浜松市美術展覧会第1回展於浜松市立図書館(-3)。
(遠州読売10/1, 静岡 11/6)
- 11/ かつぱと似絵展於静岡吉見書店(-)。(静岡読売,
遠州読売 11/5)
- 11/ 3 《豊田佐吉胸像》除幕式於鷺津中学校。
(遠州読売 11/1, 静岡 11/4)
- 11/ 6 猪飼重明個展於浜松榛屋(-9)。(静岡 11/6)
- 11/ 燦墨会展於浜松榛屋(-15)。
(静岡読売, 遠州読売 11/13)
- 11/13 「私のコレクション紙上展」(毎日静岡・遠州版11/13,
14, 15, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 24, 25, 26, 27, 28, 29,
12/1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10)
- 11/16 静岡県美術展第7回展於田中屋(-22), 於静岡松
坂屋(17-22)。審査員:福田豊四郎、鈴木信太郎、
小堀進、大村政夫、堤達男、杉本宗一。(静岡 9/3,
11/16, 17, 27, 毎日静岡・遠州版 11/16, 17, 18,
静岡読売, 遠州読売 9/18, 11/12, 17, 12/8)
- 11/19 角川文庫主催文人書画展於浜松市図書館(-22)、
於静岡松坂屋(25-28)、於清水戸田書店(12/1-4)、
於沼津商工会議所(12/7-10)。(静岡11/17, 21, 26,
12/7, 8)
- 11/21 清水市美術展第5回展於清水木材会館(-23)。
(静岡10/27, 朝日静岡版10/25)
- 11/25 柳宗悦・バーナード・リーチ講演会於県工業試験場。
(静岡11/23, 12/2, S54.5/12, 毎日静岡・遠州版11/14)
- 11/30 青木達弥個展於静岡吉見書店(-12/6)。
(静岡11/24)
- 11/ 向井良吉、中島快彦、林是、阿井正典《勝亦干城記
念碑》序幕於沼津乗雲寺。
(静岡読売10/20, 静岡 10/29*)
- 11/ 伊東美術家連盟発足。(静岡12/7)
- 12/11 県展移動展於浜松市図書館(-13)。
(遠州読売12/6)

平成26年度 静岡県博物館協会地域セミナー事例報告

変化に対応し、市民のニーズに応える賀茂真淵記念館の夏期講座

賀茂真淵記念館 学芸職員 鈴木理市

1. はじめに

まず、国学と賀茂真淵、賀茂真淵記念館の紹介をします。記念館運営全体の中での講座の位置づけをご理解いただきたいと考えたからです。

(1) 国学という新しい学問を樹立した賀茂真淵

国学とは「万葉集」、「古事記」、「日本書紀」などの日本の古典を研究することによって、儒教や仏教渡来以前の日本人の物の見方や考え方を明らかにし、そこに日本人らしい生き方を見出そうとした学問です。江戸中期の平和と安定の時代を背景に、儒学や歌学において、学問研究の自由を主張する空気や原点にさかのぼって研究すべきだという主張が高まる中で、国学は漢学に対して興り発展していきました。この国学を新しい学問として樹立したのが、賀茂真淵です。真淵は、今から約300年前の元禄10年(1697)遠江国敷智郡浜松庄伊場村(現浜松市)に生まれ、京で学び江戸に出て国学者・歌人として活躍するとともに現代にもつながる貴重な業績を遺しています。

(2) 開館30周年を迎えた記念館の概要



写真1 賀茂真淵記念館の外観と展示室

当館は「浜松が生んだ偉大な国学者賀茂真淵を広く顕彰したい」と熱望する浜松市民の声を受け、翁ゆかりの地である今の浜松市中区東伊場2丁目に昭和59年浜松市立賀茂真淵記念館として開館し、平成26年に開館30周年を迎えました。緑豊かな記念館周辺には、真淵の遠祖を祀る賀茂神社、賀茂真淵翁顕彰碑が建つ真淵生誕の地、真淵を

祀る縣居神社などがあり、真淵を偲ぶ格好の施設となっています。また、ユニバーサルデザインを基調とする記念館は、来館者の利便性を考慮し、展示室・講座室・事務室などすべて1階に設置した誰にも優しい記念館となっています。当館では、真淵自身の書や著作をはじめ、師や弟子たちの学術的・資料的価値の高い名品約6千点を所蔵し展示しています。

(3) 変化に対応する記念館の運営

市民の皆様方に愛され支えられて30周年を迎えた記念館では、少子高齢化、生涯学習社会などの時代や社会の変化に対応し、集客数の増加、施設稼働率の増加等をめざす運営改善に努めています。

その指針は「むずかしいことをやさしく、やさしいことを深く」です。これは井上ひさし氏の言葉ですが、生涯学習の学びの場の極意でもあったと考えたからです。



写真2 来館スタイルの多様化～ファミリーでの来館～
(写真提供 静岡新聞社)

(4) どの年代にも開かれた記念館へ

記念館運営の基本は、真淵や遠江国学者の業績を紹介する平常展と特別展です。この展示を、どの年代にとっても分かりやすくするために、真淵の生涯を紹介するビデオコーナーの設置、詳細な解説と翻字をつけた展示の工夫、

映像パネルによる真淵ゆかりの地や歌碑の紹介等々をしています。さらに、古典の基礎知識や展示物を身近な観点から紹介する一口解説、真淵の詠歌を季節に寄せて紹介する今月の歌などを印刷配布し観覧者からは「分かりやすい」、「勉強のよい資料になる」と大好評を頂いています。

また「来ていただく記念館から出かけていく記念館へ」を合言葉にした出前講座、ワークショップ型親子でならい教室、夏休み子ども学習展、さらに県博物館協会主催のキッズアートプロジェクト、浜松市のまちづくりプロジェクト：スタンプラリーなどとも積極的に連携し、未来を築く子どもたちが本物の文化に触れる機会の充実にも努めています。団体からグループでの来館者の増加などの来館スタイルの変化への対応は、着実な入館者の増加をもたらしています。

2. 事例報告

事業名 開館30周年記念
平成26年度 賀茂真淵記念館 夏期講座

(1) 地域文化の発展、向上に寄与する記念館

静岡県博物館協会の地域セミナーの目的は「博物館活動を地域に紹介し、また地域との連携を強化することにより、博物館と地域との一層の融合、協調を進め、地域文化の発展、向上に寄与することを目的とする。」とあります。

記念館にとっても開館30周年の節目は、運営の在り方が所期の目的に照らして実効あるものになっているかを真摯に検討するよい契機であると受け止めました。

(2) 生涯学習社会、市民のニーズに対応する記念館講座

当館では、夏期講座を地域文化の発展、向上に寄与するための講座として位置づけており、平成26年度の企画立案をするにあたっては以下の点を踏まえしました。

- ①新しい学問である国学を樹立した真淵は、江戸中期の浜松生まれです。「新しいものを創り出すまち浜松」、その精神的風土を江戸期に探る講座とする。
- ②徳川家康公顕彰400年祭、浜松城跡の整備と復元の機運が大きな高まりを見せています。こうした市民のニーズや要望に応え、市の施策とも連携する講座でありたい。
- ③生涯学習における学びの提供においては、学習者のニーズおよび自発性が尊重されることが大切です。記念館講座はこれに応える講座としたい。

(3) 城下町・宿場町として発展した浜松をさぐる講座

近世の浜松の発展は、遠江平定を期す徳川家康が、元亀元年(1570)曳馬を浜松と改め、曳馬城を大改築し新しく浜松城を築いてから始まりました。さらに慶長6年(1601)浜松宿が定められると城下町と宿場町との複合的機能をもって発展してきたのです。

人の移動が厳しく制限されていた幕藩体制下において、許容されていたのは伊勢参り、秋葉信仰など信仰の旅でした。この信仰の旅から庶民の旅への広がりと相まって宿場町として発展していく様相を「江戸時代の秋葉信仰」、「旅する江戸時代の庶民」「城跡の整備と復元」の3つの視点からさぐるべく夏期講座を設定しました。(写真3参照)



写真3 夏期講座のポスター

(4) 学びを広げる講座の組み立て

各講座を組み立てるにあたっては、講師に、受講者の要望や関心を伝えながら、講座を通して学びが広がるように努めました。

その基本は、「もっと知りたい」との学びの行動や「もっとよく観たい」と再来館を誘う組み立てです。講義のなかで展示や蔵書の紹介、講座資料への「参考文献」の明記、加えて休憩時間を活用し、臨地研修の資料提供、参考図書の閲覧紹介などを実施しています。

とりわけ大事にしているのが毎回講座の最後に行う質疑応答タイムです。受講生にとっても講師にとっても、次の学びへと広がる刺激となり契機となるものです。受講生からは「これが楽しみなんです」と大好評です。

(5) 信仰の旅から庶民の旅へ



写真4 江戸時代の秋葉信仰・旅する江戸時代の庶民の講座

遠州における代表的な信仰の旅は秋葉山信仰からはじまります。武士階級にとっては軍陣の勝利をもたらす神として、また庶民にとっては竈(かまど)神(かみ)・火防の神としての信仰が広まりました。度重なる大火に見舞われた江戸をはじめ全国各地に多数の秋葉講が結成され、大勢の参詣者が全国から秋葉山を目指しました。その主な道筋は東海道筋の浜松宿や掛川宿から秋葉山へのぼっていくもので、今も残る秋葉灯籠や大鳥居は往時の盛況ぶりを今に伝えています。街道や宿場が整備されるのに伴って、信仰の旅は庶民の旅へと広がりました。

賀茂真淵が新しい学問としての国学を樹立した江戸中期の東海道は、人・もの・文化・情報の大動脈でした。この要衝の地である浜松御城下・浜松宿は、東西の文化が行き交い技術や道具を伝播させ多様な考え方を受け入れてきたのです。こうした風土が醸し出す精神は“進取の気鋭”“やらまいか精神”のDNAとして今に伝えられているとの講師の話に受講者は深い感銘を受けていました。

(6) 行政・市民ともに最新の情報を共有するお城の講座



写真5(左) 全国山城サミット(平成23年11月)

写真6(右) 浜松城公園の未来を語る(平成26年3月)

お城ブームは徳川家康公顕彰400年祭と相まって大きな盛り上がりを見せています。こうした動きを踏まえ、「お城のことをもっと知りたい」「ボランティアガイドをしているがお城の基礎的なことを学びたい」などの声を反映させ、記念館ではお城シリーズの講座を開催して、本年度で4年目となります。(表7参照)

平成23年度(歴史文化講座として実施)

	講座名	講師・会場
①	「南北朝期の遠江の城」	織豊期城郭研究会代表
②	「戦国期の遠江の城」	代表 加藤理文氏
③	「近世の遠江の城」	於:賀茂真淵記念館 講座室

平成24年度

	講座名	講師・会場
夏3講座	築城の秘密から探る 遠州の名城「二俣城」	織豊期城郭研究会 代表 加藤理文氏 於:市地域情報センター
	築城の秘密から探る 遠州の名城「浜松城」	

平成25年度

	講座名	講師・会場
夏3講座	豊臣大名の築城技術 ～石垣からみた築城技術～	織豊期城郭研究会 代表 加藤理文氏 於:市地域情報センター
	豊臣大名の築城技術 ～瓦からみた築城技術～	

平成26年度

	講座名	講師・会場
夏3講座	城跡の整備と復元	織豊期城郭研究会 代表 加藤理文氏 於:市地域情報センター
	城跡の整備・現状・問題点 ～浜松市内の城跡の整備に向けて～	
	城跡の整備と復元 復元された建物 ～現在の復元と今後の方向～	

表7 最新の情報をタイムリーに* 講座は現在進行形*



写真8 最新の発掘調査を伝える「浜松市文化財情報」

浜松市では往時の浜松城の姿を明らかにしたいと、発掘調査を実施し数々の貴重な遺構を相次いで発見し、その成果を公表してきました。まちづくりには情報の共有とこれに基づく参画意識の醸成が大切であると考え、浜松市の発掘調査の進捗状況を踏まえた講座の設定としています。

◆第1回開催の平成23年度は、講座名「遠江の城」全3回とし、南北朝期・戦国期・近世と遠江の城がなぜ造られたのように展開していったか、歴史的背景を踏まえながら城郭の変遷をさぐる概論的な講座としました。

浜松市は市内に城が100以上もあるといわれる「城のまち」。平成23年は市制100周年記念の全国山城サミット浜松大会が開催された年であり、タイムリーな講座のスタートとなりました。(写真5参照)

◆次年度からは、時代や地域、勢力単位による築城技術の特徴について理解を深める講座としました。平成24年度の「築城の秘密から探る遠州の名城」では、虎口や塁線、堅堀などの城郭の構成、25年度「豊臣大名の築城技術」では、天守、石垣、瓦などの城郭を特徴づけるものについて理解を深めました。

◆平成26年度は、これまでの城についての基礎知識を踏まえて「城跡の整備と復元～その現状と問題点～」とし、浜松城の魅力をより引き立てるための現状と今後の方向性につ

いて、全国的な視野から最新の情報を提供するための講座としました。

講師から「石垣に聳(そび)える天守の姿だけを、お城と考えていませんか?」との問題提起。図面、発掘調査の成果、文献等をもとに検証し旧状に復した事例として、浜松城の天守門が紹介されていました。

また、「この城は夏には山(やま)蛭(ひる)がでますよ。」などと城の实地調査をする時期や注意点、参考図書の紹介などが随所であり、学びが広がるように配慮された講座でした。



写真9 熱気あふれる城跡の整備と復元の講座

講座の後、受講者から自ら学びを広げていく感想がたくさん寄せられました。

- ①「自分たちで臨地研修をしたい。講師を招いて勉強会をもちたい」と市文化財課に相談したところ、講師を紹介され自分たちで勉強会を開催することができました。
- ②「観光ボランティアガイドをしています。確かな知識が力となり、自信をもって活動することができるようになりました。」
- ③「お城の見方が分かり、お城を鑑賞する新しい楽しさを見ることができました。浜松城は市民の誇りです。その魅力を創っていくお手伝いができればと思います。」



写真10 平成26年3月に復元整備された浜松城天守門

3. 主な成果

開館30周年記念の夏期講座を開催するにあたり、静岡県博物館協会から運営経費のご支援を賜り、地域セミナーの趣旨を生かした講座開催ができました。その結果、以下のような大きな成果を収めることができました。

(1) 浜松市では、浜松城公園の再整備に向け大きな盛り上がりを見せています。今夏、市の施策との連携や市民の要望の実現などに応える観点から江戸時代の秋葉信仰、旅する江戸時代に庶民、城跡の整備と復元の3つの視点で構成する夏期講座の時宜を得た開催ができました。

(2) 第3講座「城跡の整備と復元」への関心はとりわけ高く、市内はもちろん県内外からも多くの受講希望が殺到したため収容能力のある浜松市地域情報センターを会場として利用しました。快適な会場で、浜松城の歴史的価値を生かし、より魅力的な浜松城公園にするための視点の共有が、市内外の多くの方とできたことは大きな成果です。

(3) 「広報はままつ」をはじめ、ポスター・チラシの作成、HP等によりこれまで以上に講座開催を広く周知することができ、お城の研究会やボランティアガイドの方々にも呼びかけることができ、集客数の増加につながりました。

4. おわりにかえて

おわりにかえて、新しい動きへの記念館としての対応を紹介します。

(1) 新しい浜松市文化遺産デジタルアーカイブへの対応

平成26年11月、浜松市文化遺産デジタルアーカイブが公開されました。当館に関係する賀茂真淵と遠江国学、浜松城と城下の絵図なども掲載され、高精細画像の閲覧ができる優れたものです。記念館として、この大きな可能性に夢が

広がります。

(2) 新視点での特別展を他館との連携で

徳川家康公顕彰400年祭に因み、平成27年度の特別展として「(仮題)賀茂真淵とふたつの葵」を企画しています。賀茂神社・縣居神社ゆかりの双葉葵、徳川家の三つ葉葵を基軸としつつ、真淵の国学樹立と徳川家との深い縁に、学問的な新しい視点からスポットを当てたいと考えたからです。その鍵を握るのは展示品です。館藏品に、図書館や博物館、岡部家ゆかりの家などに伝わる資料や蔵品を加えることによって、これまでにない魅力溢れる特別展にしたいと想を練っています。

【参考文献】

寺田泰政「明解 賀茂真淵」浜松史蹟調査顕彰会
神谷昌志「はままつ歴史発見」静岡新聞社
浜松市文化財ブックレット5「浜松城と城下をめぐる」
加藤理文「静岡の城」サンライズ出版

【資料提供】

浜松市広聴広報課
浜松市文化財課
浜松市立中央図書館

平成26年度 静岡県博物館協会地域セミナー事例報告

シンポジウム 灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開

浜松市博物館 学芸員 久野正博

はじめに

平成27年1月25日(日)、静岡県博物館協会の助成金をいただき、東海土器研究会・静岡県博物館協会・浜松市博物館の主催でシンポジウム「灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開」を開催し、5人の発表と討論を実施しました。

事業の概要

事業の成果

今回のシンポジウムは、浜松市博物館のテーマ展「平安時代の陶芸と技」に併せて、9世紀から11世紀にかけての灰釉陶器の生産における地方窯の成立を題材に開催しました。

地方窯として、特に遠江国の宮口窯(浜松市浜北区)・清ヶ谷窯(掛川市)、駿河国の旗指窯(島田市)・助宗窯(藤枝市)の諸窯をとりあげ、同じ地方窯としての三河国の二川窯(愛知県豊橋市)や中核窯としての尾張国の猿投窯(愛知県西部)との比較によって、静岡県を中心とする東海地方東部での灰釉陶器生産の盛衰と地域性の解明を試みました。また、消費地での出土状況を通して、地方窯成立の背景とその製品の流通についても考えてみました。

日時

平成27年1月25日(日)午前9時30分～午後4時30分

会場

浜松市地域情報センター ホール

資料集

A4判 267 ページ

参加者

121人

プログラム

- 9:30 開場
- 10:00 開催趣旨: 鈴木敏則(浜松市博物館)
- 10:10 旗指・助宗窯の灰釉陶器編年と地域性:
河合 修(静岡県教育委員会)
- 10:55 宮口・清ヶ谷窯の灰釉陶器編年と地域性:
鈴木敏則(浜松市博物館)
- 11:40 昼休憩
- 12:40 灰釉陶器生産地域の拡大～猿投窯からみた駿
遠地域の窯～:尾野善裕(奈良文化財研究所)
- 13:25 関東への灰釉陶器の流入状況と在出土器:
田尾誠敏(東海大学)
- 14:10 休憩
- 14:20 灰釉陶器の年代観～伊場・城山遺跡から発信～:
向坂鋼二(元浜松市博物館長)
- 15:05 休憩
- 15:15 シンポジウム
「灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開」
司会:平野吾郎
(現浜松市文化財保護審議会委員)
- 16:30 閉会

※この時間配分は、プログラム上のもので、当日の進行時間とは異なります。

シンポジウム 発表の要旨

旗指・助宗窯の灰釉陶器編年と地域性：

河合 修(静岡県教育委員会)

静岡県中部、大井川の東岸にある志太平洋野は、灰釉陶器の精力的な生産が行われた東縁であることはよく知られている。烏田市の旗指古窯跡群は、平安時代後期の灰釉陶器窯を主体に約50基で構成されている。昭和48～49年度の国道1号線烏田バイパス建設に伴う調査結果による成果では、I～VI期の時期区分がされ、I～IV期を灰釉陶器、V～VI期を山茶碗の時期と位置付けた。昭和54～57年度の茶畑の改植に伴う調査結果による成果では、I～III期を灰釉陶器、IV期を山茶碗の発生期と区分され、第I期を折戸53号窯期、第II期を東山72号窯期、第III期を百代寺窯期、第IV期を東山79号窯期に対比させている。藤枝市の助宗古窯後群の資料は、部分的な資料に基づき編年的考察がされており、焼成品を1～4群に分類した上で、1群を10世紀前半、2群を10世紀後半、3群を11世紀前半、4群を11世紀後半に想定し、特に2・3群は猿投窯の東山72号窯式・百代寺窯式の変化とは、逸脱し、独自の変化をたどっている。

旗指古窯の昭和54～57年の資料を主体に再考し旗指古窯の時期を5期に分類し、1～3期を灰釉陶器、4・5期を山茶碗の時期に区分し、助宗古窯との対比を考えている。

宮口・清ヶ谷窯の灰釉陶器編年と地域性：

鈴木敏則(浜松市博物館)

平安時代の遠江での窯業生産は、浜松市浜北区の宮口窯と掛川市大須賀町の清ヶ谷窯が成立し操業した。斉藤孝正氏の猿投窯の編年を宮口窯と清ヶ谷窯の大別の窯式に当てはめ、①黒笹14号(K14)窯式の段階をI期、②黒笹90号(K90)窯式の段階をII期、③折戸53号(O53)窯式の段階をIII期、④東山72号(H72)窯式の段階をIV期、⑤百代寺窯式の段階をV期とする。

灰釉陶器生産の伝播については、二川窯が猿投窯の製品と識別が難しいことから、二川窯はK14窯式の段階に猿投窯から工人が移動して来て生産を開始したことが考えられる。宮口窯は、製品に地域色が見られることから、猿投窯から直接工人が来たのではなく、K14窯式の新しい段階に周辺部もしくは先行して操業していた二川窯から工人を招聘した可能性が考えられる。清ヶ谷窯は、宮口窯の製品と類似点が多いことから、宮口窯から

の工人の移動が考えられる。このように西から東へ玉突き的に工人が移動したように見受けられる。

宮口窯では灰釉陶器末期から山茶碗初期の段階が欠落しているが、同じ領域に灰釉陶器窯と山茶碗窯が分布していることから、生産は継続していたと推定したい。清ヶ谷窯はわずかに山茶碗窯が確認されており、山茶碗窯が成立していたと推定される。清ヶ谷窯では本格的な山茶碗の生産は見られず、菊川市にある皿山窯などへ生産を移していったと推定される。

灰釉陶器生産地域の拡大～猿投窯からみた駿遠地域の窯：
尾野善裕(奈良文化財研究所)

平安時代の灰釉陶器は、以前は濃尾地方の特産であるかのように認識されてきたが、今では窯跡が広く西は伊勢・近江から、東は遠江・駿河まで分布していることが明らかになりつつある。これまで、灰釉陶器の編年研究は生産地ごとに細分化する方向で進められてきたが、その一方でほとんどが猿投窯の灰釉陶器編年と対比する形で進められてきた感がある。地域の存在を前提とするならば、編年上で指標となる特徴も、生産地の枠を超えて灰釉陶器の時期的併行関係を追及する際に、共時性の決定的根拠にならない。

濃尾平野の窯と比較すると、二川窯以東の窯には3つの特徴が認められる。第一には、器構成上の稜碗の生産という古い要素や灰釉刷毛塗りや回転ヘラ削り調整という古い技法がより新しい時期まで残ること。第二に中国陶磁などの模倣を通して登場する新たな器種と、在来の器種が往々にして明確に作り分けされず、器種の融合というべき現象が見られる。第三に駿遠地域の窯跡出土品に皿類が少ないことが挙げられる。また、猿投窯で生産が低調になる時期に、駿遠の窯は生産が活発化している。

尾張における灰釉陶器生産は、緑釉陶器生産の技術導入に触発されて平安時代初期に始まった。契機となった緑釉陶器生産自体は、事実上嵯峨(太上天皇)の家政機関の経営下にあったと目されており、嵯峨崩御(842年)後にはその機能は淳和院が継承しており、嵯峨・仁明源氏の一族が院司を務めていたと考えられている。この時期に嵯峨・仁明源氏などが国司として関東へ赴任しており、東海地方の施釉陶器の生産と流通には、淳和院を拠り所とした源氏一門の経済活動の動きが大きく影響している。

関東への灰釉陶器の流入状況と在地土器：

田尾誠敏(東海大学)

関東地方での灰釉陶器の出土量は東山道諸国(上野国・下野国)に搬入された量に比べて東海道諸国(相模国・武蔵国・上総国・下総国・常陸国)に搬入された量の違いが桁違いである。その一番の理由は山間部の東山道は陸路で運ばれたのに対して、東海道は海上交通を利用して多量に搬入された所以であろう。東山道諸国においてはK90号窯式までの猿投窯製品は少なく、東濃窯の生産が盛んになる光ヶ丘1号窯式から搬入量が増え、大原2号窯式にピークを迎え、虎溪山1号窯式で減少していくという動向と生産地から東へいくにつれて出土量が減少するという状況と併せると東濃窯の生産実態及び段階的な供給圏の縮小が陸路による搬入を裏付ける。東海道諸国においては、その膨大な搬入量からしても、相模国府周辺が海上ルートによってもたらされた集積拠点となり、水陸交通により各国へ運びだされたであろう。武蔵国においては、北部と南部で灰釉陶器の搬入状況が異なり、前者が東濃窯産の製品で占められるのに対して、後者は猿投窯及び三河・遠江産の製品が多数を占めているように国内でも前者が東山道の流通圏、後者が東海道の流通圏に分かれている。尾野善裕氏が述べたように、灰釉陶器の流通の背景に国司の利権があったからこそ、搬入する製品の生産地を選択したり、転換の様相が顕著に現れたりするのではないだろうか。

灰釉陶器の年代観～伊場・城山遺跡から発信～：

向坂鋼二(元浜松市博物館長)

1968年から81年までの13年間、調査が行われた浜松市伊場遺跡の調査の総括をする立場にあり、総面積約3,600㎡の大規模発掘調査であった。4次調査において、大溝と呼んだ埋設河川の東岸に灰釉陶器がまとまって発見された。しかも、その灰釉陶器群に伴って「延長二年」(924年)と記した木簡が検出された。当時、灰釉陶器の研究をされていたのは名古屋大学の橋崎彰一先生しか居られず、先生の編年では黒笹14号窯式(10世紀中頃)→黒笹90号窯式(11世紀前半)→折戸53号窯式(11世紀後半)として示されて以来、伊場遺跡第4次調査当時まで踏襲され、広く絶対的な信頼感を得ていた。「延長二年」の木簡と伴出した灰釉陶器は、折戸53号窯式によく似ていた。この所見を重視すると橋崎先生の編年とは

1世紀半の差が生じることとなる。

また、浜松市城山遺跡からは灰釉陶器と弘仁九年(818年)初鑄の皇朝十二銭のひとつ「富壽神寶」が伴出した。伴出した灰釉陶器は黒笹14号窯式の特徴と一致している。鑄造後間もなく城山遺跡の灰釉陶器と埋没したとすれば、橋崎先生の編年とやはり1世紀半の差が生ずるのである。

1971年には奈良県の平城宮跡東三坊大路東側溝の発掘調査結果について、担当者の高島忠平氏が灰釉陶器と伴出した皇朝十二銭や木簡の年号から黒笹14号窯式や黒笹90号窯式の年代を9世紀後半に位置付けられた。この高島氏の調査結果や伊場遺跡での灰釉陶器の年代観を契機に、灰釉陶器の年代観に疑念が生じ、不動と見られていた橋崎先生の灰釉陶器の年代観が大きく揺らいだ。これは、この時期に各地で急速に行政発掘が進展し、新しい情報が急速に増加する状況にあったことが、その背景にあったといえる。

おわりに

シンポジウムの5人の発表はかなりボリュームのある内容であり、時間が超過ぎみとなりました。その関係で最後に行った討論がかなり短縮されたため、事実確認に終わってしまい、年代の対比や生産地での比較などの討論の時間がとれなかったのは残念ですが、平安時代における遠江・駿河の灰釉陶器生産を考える上で充実したシンポジウムの開催となりました。



写真1 シンポジウム資料集表紙



写真2 シンポジウム討論



写真3 会場の様子

静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

1. 投稿を受け付ける原稿

(1) 内容規定

加盟館園職員が従事している職務(展示・調査研究・保存・教育普及・その他)に関する論文、報告、事例紹介、収蔵品紹介等
※専門分野に関するものに限りません。学芸職員以外の投稿も歓迎します。

(2) 執筆者規定

加盟館園職員一人もしくは複数人の執筆によるものとします。複数人による場合、全執筆者の1/3が加盟館園職員であることを条件とします。

2. 入稿規定

(1) 原稿の種類

日本語による原稿を基本とします。

(2) 入稿の方法

デジタルデータと印字原稿、必要なら図版(ポジ、印画紙写真、デジタルデータ、図面等)等を併せて提出して下さい。
デジタルデータはOSを問いませんが、必ずテキストデータを添付して下さい。図版のデジタルデータはJPEGに統一して下さい。
※万一の場合に備え、原稿提出の際には必ず手元に控えを残しておいて下さい。

(3) 分量

ページ数目安(1ページ当たり)	事例報告等(1~4ページ分程度)	事例報告等(1/2ページ分)
論文 縦書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	縦書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	縦書き 写真無しの場合 1,100字 写真有りの場合 900字
横書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	横書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	横書き 写真無しの場合 1,100字 写真有りの場合 900字

(4) 文字原稿(印字原稿は次の書式でご提出下さい)

字数(1シート) A4版 40字×30行
※誌面レイアウト・フォーマットに揃えた入稿も歓迎します。レイアウト見本をご希望の方は、事務局にお問い合わせ下さい。

(5) 図版原稿(1ページの版面はA4)

カラー(巻頭図版) 掲載希望があればご相談下さい。
モノクロ すべて挿図として扱います。

- Ⓐ カラー図版原稿には、目次用のデータを明示して下さい。
- Ⓑ 挿図原稿裏面に挿図番号とネームを記入して下さい。デジタルデータの場合は、データ名に明示して下さい。
- Ⓒ 挿図原稿のコピーもしくは印刷された挿図原稿に、掲載希望範囲を、製版作業の支障にならないよう、明示して下さい。
- Ⓓ レイアウトや掲載時の大きさの希望がある場合は、その旨注記して下さい。
- Ⓔ 本文の印字原稿に、挿図番号で挿入箇所を示して下さい。

(6) 図版の著作権申請

写真等掲載に関する作品所蔵者・著作権者からの許諾等取得は、執筆者が行なって下さい。

(7) 執筆者の表示

原稿には氏名・自宅住所および所属機関所在地(それぞれ〒、Tel.、Fax、番号)・部署・役職を明記して下さい。氏名には読み仮名をふって下さい。
成果品である紀要には、氏名と所属のみ記載します。

3. 原稿の送付先

原稿は、下記宛にお送りいただくか、ご持参下さい。

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館内
静岡県博物館協会事務局
Tel. 054-263-5857
Fax. 054-263-5742

4. 日程および申込・校正手順

(1) 日程 (予定)

申込締切 平成27年11月末日
入稿締切 平成28年 1月末日
発行予定 平成28年 3月末日

(2) 申込方法

申込締切までに、下記項目を静岡県博物館協会事務局宛にご連絡下さい。

- ・執筆者 (複数執筆者の場合は、全員の氏名と所属を明記)
- ・題名 (仮題で可)
- ・分量見込 (レイアウト見本による全ページ数で表示。図版、表等の希望も含む。)
- ・縦書き、横書きの希望

※分量は、1本の論文当たり15ページ以内を基本とします。

(3) 申込の確認

静岡県博物館協会事務局は、申込締切後2週間以内に、執筆者申込時の分量見込みに基づいて紀要製作の見積もりを行いません。予算上製作が可能であれば、全申込者に申込通りの分量での執筆が可能である旨を連絡します。予算上不可能な場合は、申込者に対して分量についてのご相談を行ない、ご執筆いただく分量上限を決定します。

(4) 入稿の方法及び原稿の掲載

入稿は、上述2の「入稿規定」に従って、上述3の「原稿の送付先」に送付するか、ご持参下さい。4-(3)で示した事情により、実際に入稿した原稿が分量見込みより増えた場合、執筆者に分量を減らしていただくか、当該号での掲載を取りやめることがあります。

(5) 校正

入稿締切までに入稿された場合、執筆者は文字校正(図版等を含む)2回を行なうことが出来ます。入稿締切が守られなかった場合は、この限りではありません。

(6) レイアウト

レイアウトはフォーマットに基づき、執筆者の希望を尊重して行ないますが、最終的には静岡県博物館協会事務局が決定します。

5. その他

(1) 文責

原稿の内容についての文責は、全て執筆者にあるものとします。著作権や誤植、不適切な表記等の問題について静岡県博物館協会及び静岡県博物館協会事務局は、一切の責任を負いません。

(2) 執筆者への成果品割当

執筆者には、15部を贈呈します。複数執筆者の場合、全員分を合わせて30部を上限として贈呈することが出来ます。

(3) 抜き刷りの作成

執筆者から希望のある場合、実費をご負担いただくことで、執筆箇所の抜き刷りを作成します。静岡県博物館協会事務局にご相談下さい。

静岡県博物館協会 研究紀要 第38号